

本月一回發行

BULLETIN

DE LA

SOCIÉTÉ PÉNITENTIAIRE DU JAPON

(FONDÉE EN MARS 1882.)

No 117. FEVRIER 1898.

Rédacteur principal, et gérant. H. Sano

Sténographe. T. Yama

Imprimeur et Éditeur. S. Ishida

(LE BULLETIN PARAÎT TOUS LES MOIS.)

第 二 月 刊 行

大日本監獄協會雜誌

第百拾七號

明 治 三 十 一 年 一 月 三 十 一 日 發 行

明治廿一年五月刊

廿一年一月 東京並木活版所 謹白

謹 告

橫江勝榮君 合著 **司獄官吏必携**ノ義
 佐野 尚君 著
 手ヨリ五十日間ヲ以テ刷成製本ノ豫定ニ
 テ弊舎ニテ印刷方御請負致シ目下印刷中
 ニ候得共如何セン一ページ十八行四十一
 字詰ノ詰込縮刷版ニシテ丁數ハ千二
 ノ長キニ亘リ印刷ハ數千部ノ多キ特ニ着
 手ノ時機印刷社會最忙ノ時ニシテ印
 刷物注文輻湊シ又本書ハ同一ノ活字夥多
 ナ要シ鑄造所ノ間ニ合ハサル等種々ノ障
 碍ヨリシテ遷延ニ相成候段ハ著者ニ代リ
 豫約者各位ニ謹テ謝スル處ニ御座候就テ
 ハ目下過半印刷済ニ付來二月中旬迄ニハ
 御送本可仕候間何卒寛大ノ御高慮ヲ以テ
 微意ヲ洞察セラレ延期之義御承諾被成下
 度此段謹告仕候也

發行所 東京市牛込區若宮町十番地 大日本監獄協會事務所

東京市淺草區黑船町廿八番地

東京並木活版所

明治三十一年一月三十一日發行

發行兼編輯者 佐野 尚
 印刷者 池田 宗平
 印刷所 東京並木活版所

敬賀新年 佐野 尚

謹テ新年ノ御慶目出度申納併セテ親愛ナ
 ル我監獄官其他同情獄事家諸士ノ幸福ヲ
 祝ス扱テ小生事昨夏秋ノ候ハ新築工事ニ服シ知友諸
 士ニハ兎角御無音勝ニ有之候處昨冬常務ニ相復シ申候
 間今ハ不相變各位ノ御愛顧希望仕候也
 明治卅一年一月十二日
 在香川高松
 笠原 正進 敬白

大日本監獄協會雜誌第百拾七號目次

◎論 說	◎印南於苑吉……一
◎刑法草案に對する意見	◎留 岡 幸 助……八
◎懲罰の本質及其資格	◎別 天 生……一四
◎エルマイラ感化監獄の特性狀況(前號の續)	◎洋 々 散 士……二〇
◎監獄巡視官の出版に就て	……二二
◎典獄會議	◎典獄會議假免に就て○押送途中所持金の費消に就て○典獄會議○視察表及行狀表に就ての注意○下駄の片足逃走を企てしむ○年齡の危險時期○身体檢査の嚴正を期す○監獄會計の整理○監獄の統計○在監人に宛てたる書籍○本年度の追加豫算○獄事會議○作業上四人使役に於ける注意○密監禁に就て○賭博密賣淫の取締○近時犯罪の傾向○監獄の官舎○刑罰の實質○女囚の社會觀
◎海外監獄近況	……三五
◎英國監獄の狀況	……三九
◎各國監獄實話(其七)	◎加 地 鈔 太 郎……三九
◎各地通信	◎宮城縣會員通信○三池集治監會員通信○神戸會員通信
◎寄 書	……四五
◎我國分房制監獄に於ける救済の方法に就て○初見を述ぶ○警視廳監獄署を觀る○民事裁判所には囚人を出廷せしむ可きの當然なる事論ず○未來の獄事○洋々散士君の記事に就て○一年未滿の行狀勸告に就き各監獄實際之取扱を問ふ○學給令改正に就て○何故に看守に宿病を給せざる乎○早見	……五七
◎要 報	……六〇
◎官 報	……六〇

大日本監獄協會雜誌第百拾六號目次

口 論

◎ジョン・ハワード氏

◎論 說

◎新年の辭

◎エルマイラ感化監獄の特性狀況

◎奉教の念あるや否やを顯知するの標準を論ず

◎奉教心有無の標準

◎雜 錄

◎假出獄の多寡に就て
◎押送期間の發布
◎三十一年豫算の看守俸給額
◎議會曉諭の結果
◎監獄醫務
◎囚人に對し衣類の差入
◎在監人宛てたる小包郵便
◎懲治人の教育
◎英照皇太后御一周御式年祭
◎監獄局長の交迭(昨三十年の監獄法規

◎史 傳

◎監獄改善の泰斗ロンドン・ハワード氏の略傳

◎雜 錄

◎各國監獄實話(其六)

◎感化保護

◎大分縣出獄人保護會社

◎各地通信

◎京都府監獄署教養堂人師式及在監死亡者追悼會概況
◎熊本縣監獄署通信

◎寄 書

◎我國者助進策は有勢の士人に於て急務として講すべし
◎信香に對て
◎洋々散士に一書す
◎司獄官諸君に廣告すへき事
◎新年の文壇に上て會員諸君に一書す

◎要 報

◎官 報

◎刑法草案

別 天 生

南 漢 光 弘

織 田 信 行

加 地 鈔 太 郎

一〇

三六

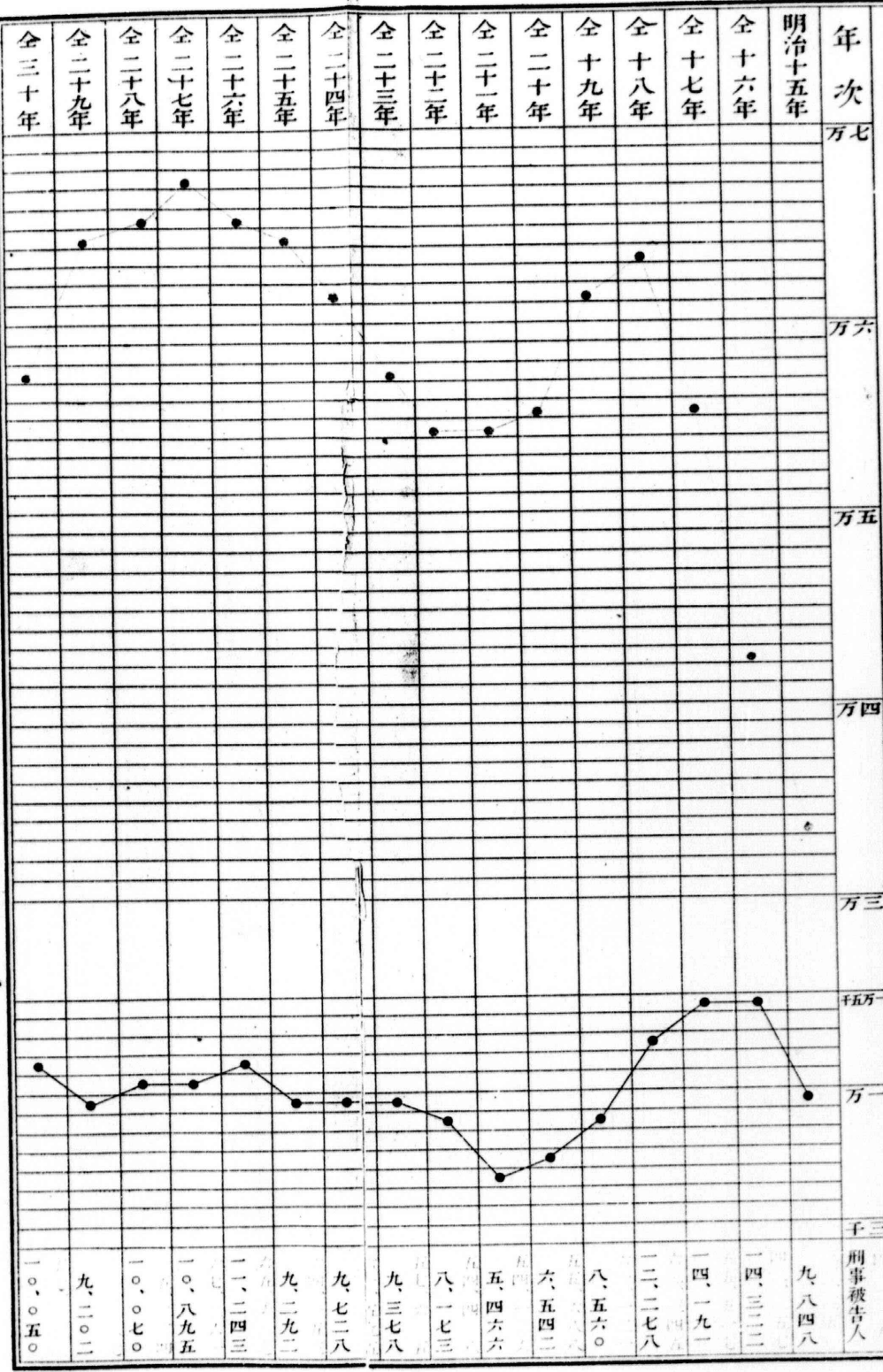
四三

四五

五〇

自明治十五年 至全三十年 囚人刑事被告人昂低表

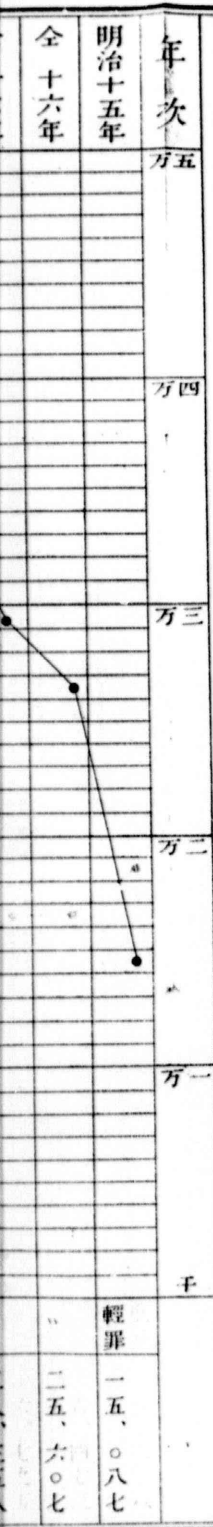
一小線ヲ以テ
千人トス

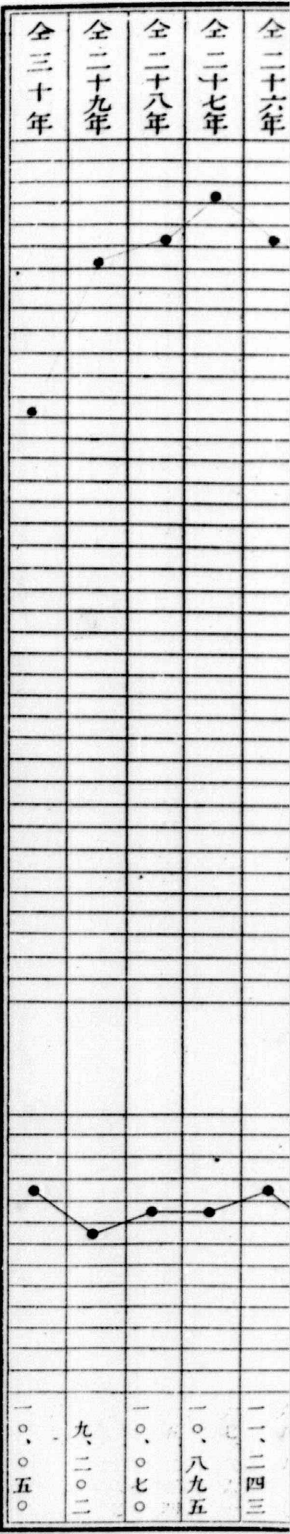


備考人員ハ各年年末現員ニ係ル

自明治十五年 至全二十九年 囚人罪別毎年十二月三十一日現員累年比較表

一小線ヲ以テ
千人トス
輕罪

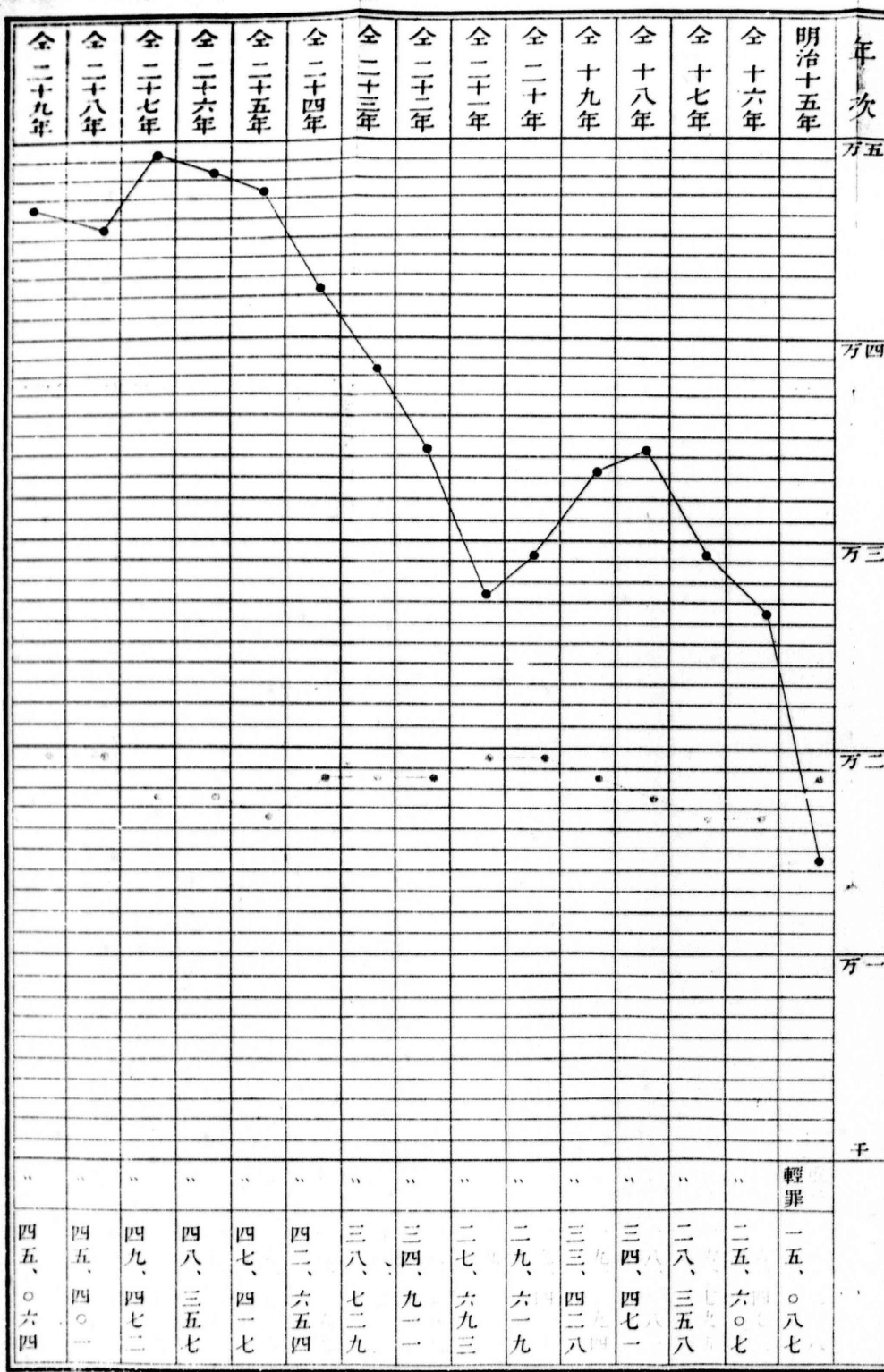




備考人員ハ各年年末現員ニ係ル

自明治十五年
至全二十九年
囚人罪別毎年十二月三十一日現員累年比較表

一小線ヲ以テ
千人トス
輕罪



大日本監獄協會雜誌第百十七號

明治三十一年二月

論 說

●刑法草案に對する意見

印南於菟吉

現行刑法は我法典中最も舊く發布せられたるものにして從て今日に在ては學理に背戾し且事實に適合せざるの嫌あるを免かれず、茲を以て我政府に於ては數年以前より刑法改正の企を爲したる所以なり、故に我輩今茲に一々其の非點を列舉し恰も死に瀕するの病軀に鞭撻が如き殘酷の所業を爲すに忍びひや、寧ろ新生の刑法をして最も健全に最も活潑に生長せしむるの策を採るの愈れるに如かず、是れ予の茲に新刑法に對する卑見を披瀝し敢て立法者の參考に資せんと欲する微衷なり、

予をして若し忌憚なく言はしむれば、現行刑法は完全に其の刑罰の目的を達すること能はざりしものなり、徒らに法文の字句に依籍し犯罪者に科するに法定の刑期を以てすれば可なりとするの單簡なる思想は、幾多の裁判官の臆慮を蔽ひ法典も亦所期する所茲に出でざるなり、是を以て今日に在ては刑の最終目的を達するの手段一として行はれず、再犯、三犯、四犯、犯數を累ぬる者愈々出で、益々多く犯罪の方法手段も亦諸非謀に傾

れ巧に法網を脱し若くは最輕の刑に甘んじて服するが如き狀況あるは蔽ふ可からざるの事實とす、我輩は今茲に監獄總計の完全なるものを得ずと雖も、確かに累犯者は總犯者の七分以上を占むるをあらひ、立法の局に當る者、若し之を疑はば、請ふ監獄に就て見よ、蓋し思央に過ぐるものならむ、而して又翻て犯罪の狀況を視察すれば、偽造の術巧緻精密に涉り容易に其の眞實を瓶別し易からず兇惡の徒は向一步進んで重刑を避け最輕の刑を受くべき方法手段に依り以て自己の慾望を全ふするに至る、故に匪行に慣れたる彼等犯人は徒刑重懲役の強盜を爲さずして却て微々たる窃盜を累ね、以て十分に自己の慾望を充たすことを計れり、是等の狀況は司直の任に當る者の熟知する所にして、文化の已む可からざる情勢とは云へ、亦立法者の須く注意すべき要點ならずや

犯數を累ぬる者の簇生するが如きは儘かに一部分は刑法の缺點に歸せざるを得ず、我輩は固より絶對的に刑法にのみ其の責を嫁するに非ず、監獄の取扱法も亦關係する所なきにしも非ずと雖も、刑法にして既に不完全なる以上は如何に監獄官吏の盡瘁あるも到底徒勞に歸せざるを得ざるべし、故に刑法は十分に刑の最終目的を達するに足るの法文を備へざる可からず、然るに幸にして改正刑法草案は多少此點に着目したるに似たりと雖も、尙未だ不充分たるを免かれず、請ふ少しく之に就て論せむ

(一) 不定期刑を採用すべし、刑法は客觀的に事實に重を置き或特定の犯罪に科するに刑罰を以てするの規定なり而して刑罰を科するの目的は犯人をして改心せしむるに在り、改心の有無は主觀的に犯人を考究するに非ずんば之を判知すること能はず、斯の如く客觀的の規定に依り以て主觀的の効果を收めんと欲するは猶ほ木に縁て魚を求むるが如けむ、其迂や憐むべく其愚や笑ふべし、宜なるかな、一定の刑期間監獄に拘禁するを以

て足れりとし刑期の終了は必ずしも犯人改心の時期と伴はざるにも拘はらず出獄せしめ社會に出でたる後却て益々犯罪を累ぬるの狀況あるが如きは強ち監獄官吏をのみ咎むべきに非ざるなり、茲に於てか歐米諸邦には既に條件附裁判なるもの行はれ米國には不定期刑の制度を探るに至れり、前者は一定の刑期を宣告するも主觀的に犯人を研究し監獄に拘禁せざるも尙且刑の目的を達し得べしと爲さば犯罪の性質に應じ之が執行を猶豫するの制度にして其の起因専ら監獄の弊風を脱せんとしたるに在りと雖も、亦事實に重を置かずして犯人に重を置くの一端たるや疑を容れず、而して後者は始め米國紐育州に採用せられたるものにして、今日に至ては殆んど米國各州該制度を採用せざるはなし今その法文を掲ぐれば左の如し

第二節 爾今輕罪若くは其の他の犯罪に依り監獄に拘禁すべき刑を宣告したるときはエルマイラ紐育州感化監獄に拘禁するものとす而して該州の法廷は之に就き一定の刑期を付することとなるべし

其の刑の期間は犯人の行爲に依り典獄獨り之が認定を下すべきものとす然れども其の犯したる罪に對し法定の最長期間を超ゆるを得ず

斯の如く刑期をして事實上執行官たる典獄に一任するは策の最も妙を得たるものに非ずや、典獄に非ずんば犯人改心の有無を知る能はず、裁判官の宣告したる刑期は常に犯人をして改心せしむるに足らず、不正の罪業を再びするを知りつゝ尙滿限の日に至らば出獄せしめざるを得ざるなり、改心を見ずして出獄せしむるの愚は寧ろ始より拘禁せざるの利に如かず、幾多の費用と幾多の煩累とを重ね尙何等の効果なきに至ては法律も豈價值なからずや、森嚴なる法廷に被告人を召喚し整齊なる儀式を踐ひで一定の刑期を言渡すが如きは殆んど兒戲に等しきのみ、論者或は爾はむ刑期は犯人をして改心せしむるに非ず、罪刑の權衡を得んが爲めに

規定せられたりと、焉んぞ知らむ斯の如き賠償の成念は今日早既に陳腐に属したるを、罪と罰ひ刑と謂ふも畢竟立法者の假設に係り感情を根柢としたる一個の妄想に過ぎずとの議論一般學者間に行はれ、學理は權衡論より全く一變して今日に於ては刑を以て犯人の自新を促すの具と爲すに至れり、

以上陳述したるが如く、不定期刑は極めて必要なる制度なるにも拘はらず、我輩は何故に新刑法は獨り條件附裁判をのみ認め不定期刑を採用せざるやと疑はざるを得ず、蓋し立法者は思惟すらく累犯者は條件附裁判の制度にのみ依りて杜絶するを得べく何ぞ又不定期刑を併用するを須ゐんと、是れ一隅を擧げて未だ三隅を反さるものなり、條件附裁判は良秋官を待て之が活用を施さば其の効力顯著なるものあるべしと雖も、獨り六個月以下の初犯囚にのみ其の範圍を限定せられたるを以て、從て効力を及ばず區域も亦狹隘なりと謂はざる可らず何ぞ是に依りて以て六個月以上の長期刑囚若くは一たび監獄に拘禁せられたる輩に對し累犯者を減少することを得んや犯人の大多數は實に後者に在り然るに之を忽諸に附し不定期刑を採用せざるべきは累犯者減少の効力また微弱なりと謂はざるを得ず

或は立法者は認めて以て不定期刑の制度は危險多しと爲すが、我輩は私に恐る條件附裁判の危險多きを、如何に裁判官は明瞭透徹なりとは謂へ、神通力を備へざる以上は豈僅々數日の審問を以て人心を看破することを得んや、兇奸の徒は六個月以下の微罪を累ねるも尙罪惡を再びせんとの念融發するに至らむ斯の如くんば條件附裁判は寧ろ社會に害惡を與ふるの制度にして立法者の豫期する所に違ふや必せり、然れども我輩は姑らく裁判官を信じ巧みに其運用施爲を怠るに非されば必ず十分の效果あるべきを思惟し、茲に之を論せざるも不定期刑は之に比すれば最も確實に最も危險少なき制度と謂はざる可からず、何となれば典獄は長年月間個人を洞察し

得べき好地位に在ればなり、若し危險の程度を以て是非の論評を下さば、少なくとも條件附裁判は一考すべきの價値なきに非ずや、

立法者或は謂はむ、不定期刑の制度は行政權を以て司法權を蹂躪するものなりと非なり、裁判官は一定の刑期を宣告せざるを以て敢て司法權を蹂躪すと謂ふ能はざるべし、一定の刑期を宣告したる者に向ても尙ほ能く假

出獄免幽閉監視假免の制度は行はるゝに非ずや、

我輩は實に不定期刑採用の得策なるを信じて疑はざるものなり、今日歐洲諸國に在ては未だ行はるゝに至らずと雖も早晚之が採用を見るの日あるべきや明かなり、新刑法制定の今日、何ぞ我邦は卒先して之を採用せざる

一に歐洲の後塵を逐ひ模倣をのみ専らとするは豈法學界の一大耻辱に非ずや

(二)懲役刑を廢すべし、現行刑法は九個の自由刑を認めたるに之を廢して懲役禁錮二個の自由刑と爲したるは可なり、然れども我輩は寧ろ之を一個の禁錮刑にのみ止むるの至當なるを信ず、懲役の文字甚だ妥當ならざるのみならず定役の有無を以て刑を二分するの必要なし、一見懲役の文字を顧みれば恰も定役を以て刑の苦痛を添ゆるものゝ如し、然れども今日に在ては歐米各國刑法學者の意見に依れば定役を科するの目的は苦痛に非ずして懶惰なる風習を矯り紀律ある生活と職業に勤勉なる良習慣とを養成せんが爲に採るべきの方法と爲せり、若し之を苦痛の爲めに科すべきものと爲さば、苦を避けて樂に赴くの自然の人情は驅て職業を厭忌するの基因となり、樂ひで職業に勤勉なるの良風習を馴致すること能はざるべし、加之、監獄實務家の談に依れば定役は犯人に苦痛を與へずして事實快樂を覺へしむ、故に犯人に苦痛を與ふるの方法は閑居獨房寂寥を感せしむるより甚きはなしと、夫れ或は然らむ、無聊の苦は左思右往神氣の懊惱を來たすべく却て職業を手

にし其の精神を轉せしむるに如かざるべし、況んや職業中自ら快樂の添ふものあるに於てや、果して定役を以て紀律ある生活と勤勉の風習とを養成するに在りとせば、主觀的に犯人を觀察し定役を科せざるも尙其の目的を達し得べしとせば定役を科するの必要なきに非ずや、然るに犯罪事實に重きを置き以て一定の犯罪者に懲役の刑を科するが如きは個人的に依て差異あるべき定役の趣旨に違ふに至らむ、立法者は何等の理由を以て紀律ある生活と勤勉なる良風習とを保持する犯人に向て役を科せんとするや、恐らくは之に對するの詳なかるべし、故に禁錮の一刑に止め定役の有無は宜しく監獄の司管者たる典獄に一任し、主觀的に犯人を觀察したる上以て科否の餘地を與へしむるに至當と信す、

(附言) 先輩小河岳洋氏は會て獄事茶話會に於て懲役の文字を非難して曰く定役を以て苦痛の要素と爲す如き觀ありて不可なり宜しく懲役の文字を改むべしと我輩は此の説の一半には同意する者なりと雖も何故に小河君は獨り文字の改竄にのみ止り一步進んで之を廢すべきを唱道せざるや疑はざるを得ず

(三) 再犯加重の制を改むべし 新刑法は再犯を解して懲役に處せられたる者更に同種類の罪を犯したることを必要とせり、我輩之に就て少なくとも異論なき能はず、(第一)懲役とあるを以て罰金の刑に處せられたる者を包含せず、故に第二百三十九條第三百十六條の富籤發賣者贖物牙保者の罰金者には適用せられざるの不權衡あり、罰金を科すべきか若くは懲役を科すべきかは固より裁判官の認定權内に在りと雖も、此の認定の如何は延て同犯者に對し或は再犯加重となり或は再犯とならざる不公平を生ずべし、此不公平や受刑の期間に於て最大なる結果を來すを思はずんばある可からず(第七十四條參照)(第二)同種類の罪を犯したる者と限定するは少しく狹隘に失するなきやの感あり、犯罪系統なるもの、存するは實なり、故に此種の者に對しては

特に刑罰を嚴にするの必要ありと雖も我輩は舊刑法の如く一般再犯者(無意犯者は論外なり)に向ても尙刑罰を嚴にするの必要ありと信す、新刑法に就ての再犯加重は犯罪系統を有する者の習慣を打破し強惡を抑壓するの手段なりと雖も初犯に懲りず尙累ねて不正の所業を爲す一般の犯罪者も亦懲役を加ふべき必要なからずや、刑を加ふるは其犯罪に對するものなりと雖も刑の目的たるや既に犯人の改心を促すの具と爲す以上は改心せざる徴候は他の犯罪を爲したるに依ても亦顯はるゝことあるべし此時に臨んで再犯加重の制を採るも豈不法ならずとせんや否我輩は寧ろ之を合理の制と信す、加之新刑法は僅かに阿片烟賭博富籤賊盜占有物横領贓物に關する罪に於てのみ再犯加重を認められたるを以て此以外の犯罪者に對しては再犯加重を行ふ能はざる筈あり、例へば通貨偽造第二百三十三條の罪傷害の罪第二百八十六條第二百八十八條の罪を行ひたる者の如きは特に再犯加重の嚴を加ふべき要あるべし、故に我輩は舊法の如く一般犯罪者にも再犯加重の制を用ゐられんことを望む、

尙又新刑法第七十六條三犯以上の者も再犯と同一限度の刑を適用するの規定は宜しく一考すべきの價值あるべし、從來の累犯者の傾向を見るときは三犯四犯五犯多きは十有餘犯に至る者亦稀なりとせず(竊盜犯者に多く此例を見る)惟ふに或は舊法も尙新刑法の如く三犯も亦再犯例を適用すとの規定を存したるを以て從て之を再びするも三たびするも同一刑なりとの感念あるを以て甘んじて刑に服すべきを豫期するの弊なきに非ざる歟、加ふるに犯罪系統者を嚴罰するの主義は再犯に止まり三犯四犯に迫んでは之を不問に置くとの理論は前後矛盾したる論理ならずや、我輩は事實の上より見るも理論の点より考ふるも再犯以上或限度迄は之を加重するも至當なりと信す

(四) 囚徒の文字を改むべし 森嚴なる刑法の規定に在ては宜しく其の用語を慎まざる可からず、第百二十四條乃至第百二十七條に在ては囚徒の文字を用ゐたるも第百四十九條第百五十一條には囚人の文字を使用せり此の如く同一刑法の下に在て一義二様の文字を顯はせるは不体裁なるを以て宜く徒の文字を改め總へて囚人ど爲すを可とす、事一項事に過ぎずと雖も我輩は法文の体裁に關して之を言ふのみ、

以上は予の新刑法を一讀し勿卒の際筆を採りたるものに過ぎずと雖も新刑法の公布は少くとも吾人學生の之に就て研究すべきの義務ありと信じて敢て茲に卑見一二を陳列し立法者及學者の參考に供する所以なり固より採否の如何は我輩の容喙すべき限りに非ずと雖も我輩は一介の學生として尙將來之を研究することを怠らざるべし知らず世の識者予輩と意を同ふするものありや否や

● 慈善家の本領及其の資格

留岡幸助

(第一) 慈善家の本領

鬱蒼たる樹木茂らざれば泰山も價值なく、洋々たる清水を湛へざれば河泉も亦聲價を減んず、豈獨り泰山と河泉而已に就きて言はんや、吾人を載せて一日一回轉する我地球の大も之れが表面に棲息する十五億の黎民なくんば山川の秀麗、天地の壯觀焉んを能く言ふに足るものあらんや、然り而して人に於て最も高貴なるは心意なり、故に身體の不自由は最も人の之を脱離せんことを欲する所なりと雖心意の束縛は更に之が自由を得んことを

を欲するを以て見れば其輕重の別自ら明かなるものありて存せん、世に慈善家なるものありて常に社會の下層若くは社會暗冥の場所にありて不幸薄命に哭する者に同情の涙を寄す、而して之が爲に時と所に適合せる行動は顯れぬ、學者之を名けて人情の慈行と云ふ

人に慷慨惻隱の心あるは性なり、性なるが故に人の究迫を見聞して適當の助力を寄與するは自然の數なり、己の父母、妻子、兄弟、親戚の究迫を救護するを以て慈善と言はず、蓋し彼は爲すべきの義務を盡したるに過ぎされはなり、慈善とは己と直接なる關係を有せずと雖等しく之れ人類なり、等しく之れ同胞たれば之を雲煙過雁視する能はず、一見局外より見る時は無關係なるが如しと雖彼は身を挺して其急に赴くなり、而して或は之が爲に金錢を投じ、時間を消費し、必要あれば身心兩ながら捧くるも亦更に悔なきものなり、如斯の動氣と精神より善行を爲すものならんには其政治、宗教、實業の如何を問はずして彼は慈善家の榮名を擔ふに足るものなり、看ふリンコン、シャフスバリー、ハオールド、ビーボデー、ウヰルバーフォース、楠正成、佐倉宗五、ジョージ、ミューラー、スチーブンギラードを、彼等は止まんと欲して止む能はざる人道救護の一大精神に驅られたるが爲なり、

第十八世紀より第十九世紀に至り、今や第十九世紀の最末に接近して正さに第二十世紀に闖入せんとするに際し此間以謂文明なるもの、進歩は實に驚くべきものありて存せり、然り而して文明に依りて寄與せられたる賜亦實に捷指に暇あらずと雖編つて想ふ時は又この文明によりて醸成されたる害惡も屈指に暇あらざるなり、就中其重なるものは智者と愚者、貧者と富者との隔絶是なり、この二大隔絶あるが爲に社會は均一平等の此調を整ふる能はず、於是乎同盟罷工あり、争闘あり、犯罪あり、戦争ありて烏風霽月の地天は暗慘悲鳴の境土と化

するに至れり、如此亂麻的社會を救拯する道一にして足らずと雖吾人の所謂慈善家の輩出はこの使命を満たすものならざる可らず、

人或は言はんムーデーは傳道者なりと、素より彼は最も熱心に福音を説くを以て傳道者に相違なきと雖、彼は福音を説くを以て満足せず、これと同時に學校を興して以て子弟を教養するなり、子弟を教養するを以て満足せず彼は更に一步を進めて貧者を訪ひ、囚者を顧み、寡婦孤兒を見舞ふなり彼は實に福音宣傳を以て満足せず聖書の一大趣旨たる人道救護を以て主義となし、之を實行するを以て天職と信するものゝ如し、人或は言はんトルストイは貴族にして文學者なりと、素より彼は貴族にして文學者なり、然れど彼は貴族を以て満足せざるが故に野に下れり、彼勿論文學者に相違なしと雖彼は到底文學者を以て満足するものにあらず、其文學を好むは「ヒューマニター」を叫ばんが爲なり、活字を通ふして人道救護の一大精神を世に紹介せん爲なり、この精神を外にして 彼に貴族なく勿論文學なかるべし、彼は人道救護を絶叫する豫言者なり、

吾人の慈善事業を千鈞よりも重しとする以所のものは如斯慈善家を崇敬するを以てなり、名は政治家たるにせよ、文學者たるにせよ、宗教家たるにせよ社會の亂調を整へその疵を癒するものありとすれば彼は少くとも其衝に立つ一人たらざる可らず、豈啻ムーデー、トルストイの如き偉人而已に就きて言はんや、人道救護の天職を完成せんには素より彼等の如き偉人を要するや言を俟たずと雖彼等の如く社會に顯はれ人目に觸ずして隠然たる人知れぬ所に於て其事業の大小はさて置き精神に至りては更に劣らざるものあり 同しく人道救護に探究盡力するもの又尠からず、吾人は公立慈善と私立慈善の別を言はず、苟も人道救護の精神に則りて事を爲すものは病的文藝的良藥、國家を保障する柱石なりと謂はざる可らず、

近來我國に於ける人道救護の運動各地に勃興し、或は孤兒の爲に、或は貧窮者の爲に、或は出獄人保護の爲に或は廢娼の爲に各自其信んずる所によりて其天職を充たしつゝあるは恊に國家の慶徴と謂ふの外なし、然れども斯事業は事業其物の高貴なるが故に之を實行するの頗る難きを見ずんばある可らず、理論上より云ふ時は慈善は何所に於ても發達進歩すべきものなりと雖我國の如く何事に係らず政府の援助なきに於ては成功頗る遅慢なる國柄にては民間有志の慈善事業は全然成功せりと云ふ可らず、其故に過去數年間に於て各地に孤兒院の數増加せし時の如きは我黨の士多くは其成功に狐疑せり、吾人の識見或は狹隘偏屈なるの故を以て適當に判斷する能はざるかは知らずと雖、今日我國に於る我黨の慈善事業は試鍊の裡にあるものゝ如し、如何にせば成功し如何なる主義と精神に則らば其目的を達すべきものなるかは序を追ふて論せんと欲する所なり、

(第二) 慈善家の資格

人の急に赴き、人の窮を救ふは人性の天に出づるものなりと雖この性情ありたればとて何人も能く慈善事業に與づるに適當せりと謂ふ可らず、等しくこれ人類なるが故に等しくこれ慈善家なりとは未だ以て人の性情を盡したるものにあらず、慈善家は慈善家の資格具備して然して後慈善家たるべし慈善家豈雲の如く多く我情の間に起るものならんや、自己を養ひ自己を飾るは今の世の常にして敢て他を顧るに暇なきは人間社會の弱點なりこの時に方りて慈善家の輩出して社會の弱點を強健補綴するにあらずんば社會は正當に發達進歩せざる可し、世に慈善を爲して無告の民を救護し、慈善家として道德界の明星たるもの少からずと雖其資格を具備して慈善家たるもの頗る稀なり、吾人は左に慈善家の資格を列舉して同好者の參考に供せん

第一、彼は無慾の人たらざる可らず、慈善家の無慾は即ち大慾なり、彼が無慾なるは大に獲んが爲なり、彼は

世人の得んと欲する物を失ふて世人の得ざらんと欲するものを得んとせり、その世人の得ざらんと欲するものは即ち彼の大に得んと欲するものなり、彼は之を得んが爲に露のものを失ふも敢て意とせざるなり、彼は此目的を達せん爲に時として饑へ渴き裸なることあり、彼は此の目的を達せんが爲に人知れぬ場所に於て暗涙を流すなり、彼は此の目的を達せんが爲に苦呻辛吟するなり、人を救ふ彼は物質を得て満足すべきものにあらず、己れ得んと欲するよりも如何にすれば能く多く之を他に與ふことを得るかにあり、其故に彼は全然無慾ならざる可らず、寸分にて自己を富まさんと欲するは彼が資格を汚辱するものならざる可らず、以是無慾は彼の第一資格たらざる可らず、

第二、彼は悠久持長に事を爲さざる可らず、慈善家が事業を爲すに方り最も慎むべきは事を一時に成功せんとすることなり、所謂事業に急ぐの弊なり、事業家の誘惑は事業を始めたるが故に、是非之を成功せんとするの心情是なり、是非之を成功せんと欲するが故に所謂満潮を俟ずして船を出すの嫌あれば成功せんと欲せしことは遂に失敗の原因となりて止むことあり、豈其れ慎まざる可けんや、慈善家の爲す事業は之を何年に於て成功せざる可らず、之を何年の間に幾莫の人を救はざる可らずてふ責任はなきものなり、彼の力に於て爲し能ふだけを爲さば其を以て満足せざる可らず、一時に成功せんと急ぐの精神は時としては之が爲に主義を譲らざる可らず、時としては正當の組織を踏まずして事を爲さるべからず、以是成功せんと欲せしことは適々以て失敗を招くの原因たらすんばある可らず、悠久持長の精神は殊に慈善事業の如き困難なる事業に投身するもの、養成せざる可らざるものなり

第三、彼は慈善事業の智識なくんばあるべからず、船を大洋に浮べんと欲するものは航海の理術に通曉せざる可らず、この理術に通曉せずして大洋に乗り出さんか適々以て難破せずんば止まず、如此慈善事業に従事するものも又其理術に通曉せざる可らざることは言を俟たずして明かなり、慈善は施與さへすれば能事了れりとなす可らず、慈善を爲すには之を爲すに足るだけの智識なくんばある可らず、古來實行し來りたる慈善と近世實行しつゝある慈善との差異は前者は非學術的にして、後者は學術的なり、其故に近世慈善を實行せんには原則あり、組織あり、方法存して之に背反するものは必ず失敗せざる可らず、其故に慈善を爲すには原則と組織と方法は之を守り之を實行せずんば眞正の成功は遂く可らず、今の慈善を爲さん者はこの智識を修得せざる可らずこれ慈善家たるものに智識なくんばある可らざるものなり、

第四、彼は是と見しとには勇往直進せざる可らず、慈善事業は所謂天下の憂に先ちて憂ふる事業たれば時として輿論に先達することあるは免かる可らざることなり、其故に衆聲に畏懼し、衆評を意に介する如きものにては到底この事業を貫徹する能はず、彼を天と自己の良心に質して是と認識したる時は勇往直進せざる可らず、衆聲に震ひ、衆論に畏るゝ如きものならんには彼は一時を彌縫して邊幅を修飾するものなれば眞正の慈善事業は爲す能はず、これ彼に斷乎たる勇往直進の舉動なかる可らざる所以なり、

第五、彼は物質を與ふるに先ちて自己の心を與へざる可らず、慈善家の第一要義は被救護者に自己の心情を與ふると云ふことなり、抑々心情を與ふるとは被救護者と同感同情となることはなり、人を深淵の底より救ひ、墮落の溝壑より助けんには同情同感は最も力あるものなり、

思ふとは汁かけ飯をくひさして

折箸をへてくるゝをそいふ、

之れ即ち同情同感なり、同感同情は死灰の如き人類に活力を與へ、失敗地に塗れて再び起つ能はざる如き者にも又能く新鮮なる一大希望を與ふるものなり、凡そ慈善事業にこの活力なくんば百物備はると雖真正に斯業を成功ならしむる能はざるなり、同情の感念は「惡を攻め善を強む」と宜なりこの故念ありて初て能く慈善事業は活動すべし

第六、彼は事務的才能に富まざる可らず、慈善は一種の一大事業たれば只其れ「御人善」にては爲す能はず、鳩の如く柔和なると同時に彼は蛇の如き鋭能なくんばある可らず、慈善家の心事は何處までも無慾、潔白、同情ならざる可らずと雖、事業を運轉する上に於て事務的眼光炯々たるある可らず、慈善家は無慾なるが故に往々無算なることあり、彼は道德的事素に欠損せざるも事務的才能に欠くるの故を以て事業に成功せざるもことあり、之れ戒慎せざる可らざる一要件なり、

然れど事務的才能に鋭敏なるの故を以て慈善家たるべき徳性を損辱するは恐れても尙恐れざる可らざることたり、算盤と道德と互に相衝突するは常にこの邊にありて存せずんばある可らず、

(未完)

●エルマイラ感化監獄の特性狀況 (前號の續)

別 天 生 稿

授業手の職務たるや實に職業に於ける理論的感念を與ふるのみならず實驗的の動作として一の完全なる職人工業者を養成せんとするに在り、故に時々其の成績熟否の如何を試験するは専ら該監獄の特質なりとす、其廳廊

は延長百五十「フイート」高さ貳拾壹「フイート」にして之に長は四百五十「フイート」の附屬廳舎あり、該附屬廳には監房數五百四教場官吏事務室等一般の設備あるも、是等は唯壁基石を除くの外總へて囚人の經營に係れるものとす、其他尙百五十拾人を坐するに足る講堂設計裝飾等も亦手工業者の手に成り囚人の被服は裁縫工靴工の作業に依り供給せらる、以て工業の成否如何を知るに足らむ

現に千八百八拾八年の夏に追んで作業停止論の勃興するに至りしは全く監獄用品以外の作業種類に就てのみなり、當時に在ては一般の作業として磁器鉄器靴椅子ブラッシ等及びパイプ等の種類を採れり、千八百八拾九年の法律は感化監獄に於て靴及磁器の發賣を禁止し且椅子ブラッシ等々の製造は該國普通良民に在て其の工業に従事する者の百分五比例より多くの囚人をして使役することなからしめ、パイプ製造は七拾五人に對する拾壹人の比例の範圍内を以て之に當らしむるの局限策を採るに至れり、茲に於てか該監獄制度の精神寧ろ作業を科する所以の旨趣は囚人の放免後自活に足るべき職業を撰はざる可らざるの正理愈々益々開發せられたりと雖も此方策を採ることの進運に關し大に緩慢なるに至りしは事實なりとす、磁器製造の如きは當初の計畫二百五十人を以て之を當らしむるの豫算なりしと雖も法律の結果に依り僅かに百貳拾人を以て充つるの止む可らざるに至れり、從て室内裝飾品の製造パイプ工中の轆轤工傘工等起り、是等の作業に従事する者二百四拾人の多きに達し何れも皆第二級囚に屬する者か若くは職業熟達者として認められざるはなし、

若し感化監獄の制度にして良民と罪囚とを區別すべき一點の劃線を發見したらむには、そは則ちち心性修養の如何に在らむ、感化監獄に收禁せらるる者の最大多數を視察するに實に心性修養の欠乏に在りと謂はざる可らず、百人中七拾人は慥かに無學か否らずんば要意なくして十分に讀了し之が爲めに其意義を解すること能はざ

る無教育者に屬す、この無智の傾向、不良なる社會の周圍等は今日に於ては疑もなく彼等をして犯罪に陥らしむるの原因なり、各國同盟の教育局は聯合會議の結果、貳拾箇國の統計に徴し近時左の決議を與へたり

(一) 罪四六分一は概して無學の人民なり

(二) 罪四三分一は實際無學の人民なり

(三) 無學の人民の犯罪の傾向は普通教育以上の程度に在る者の十倍なりとす

茲を以て感化監獄に於ては容易に讀み容易に書き算數の四則應用を爲し得る程に進むに非ずんば出獄せしめざるの方針を採れり、尤もこの程度は最低を示したるものにして假出獄の特許を得たる者は多くは小學校卒業の程度に達したる者なり尙進んでは高等教育を受ける者の爲め特に其設備を置けり、

學校制度は感化監獄設立の翌年即ち千八百七十七年に於て採れる所の方策にして専ら強制的に過ぎざりし當時百七十人は邦獄よりの送附囚に係り其三分二は簡單なる算數さへも理解すること能はざる腦力を有せり依て此等の囚人百七十人を二十の小階級に分ち同囚を教師とし文字及算數を教授したるも、千八百七十九年に迄んで規律的の學校制度益々進歩し、特に經驗ある兒童教師を聘し以て教育を盛んにせり、此の進歩は年々増大となり八個國の國語算數の九科目を含むに至り英文學米國の古代歴史經濟學行政學地理學代數電氣學禮法倫理學等の各科目に就て教授を行ふの趨勢とはなりぬ

學校は大別して三級則ち初級中級上級と爲し尙初級を分て六級とし中級上級を分て二級とす、此他獨逸佛蘭西伊太利語の囚人に對しては英語を教ゆるの特級あり、各級何れも火水木金の午後六時半より授業を始め八時に至て終るものとす、試業を行はむとするときは十分なる餘暇を與へ一年の終末より翌年に涉りて之を施行する

ものとす

監内の學校に在ては其の囚人の境遇及び個人的關係以外尙二個の特質あるを忘る可からず則ち其の階級の大なること並に授業方法はなり、此二個の性質は學校制度の愈々發達するに従ひ漸次相互密接の關係を保持するに至れり、若し之を普通學校の制度と等しく惟一の教科書に依り授業を爲すが如き方法を探るに至らば或は恐る斯の如き多數生徒の各階級をして退御教導共に其の宜きを得る能はざるを

授業方法は實驗する所に依り實に意想外の好結果を奏したるものなり、多年の經驗は兒童教師の職務をして眞摯開發的に生徒の腦髓を養成し智育發達の點に於て一點の遺憾なからしめたり、授業方法とは何ぞ、曰く紙數二頁乃至八頁或は十頁に充たざる一葉の印刷紙にして中に授業科目の題目要點のみを摘舉し以て教師講演の參考とし生徒の備忘に供するが如き簡單なる冊子を各自に配付するに在り

此方法の長所とする所成るべく其の印刷記事の粗雑なる點に存す、粗雑なれば粗雑なるに従ひ愈々以て彼等生徒の心性を啓發誘導し、千思万考之が爲めに至當の解釋を得んことに汲々たり、之を浩渺なる教科書に比すれば一葉八頁の印刷紙とは豈簡便なる方法に非ずや、況や教科書に依頼するの結果精神の發達を妨遏するの弊あるに於てをや、然りと雖も非常に平凡なる事項を摘舉し以て彼等の輕侮心を招致するが如き、若くは高尙に過ぎたるの結果自暴の念を融發するが如き弊あるは最も注意して避けざる可からざる所とす、該方法は獨り生徒の精神をして開發的ならしむるのみならず、教師に向ても亦効力ありと謂ふべし、何となれば教師は豫め講演の材料として成事項を研究し之を印刷に付せざる可からざるを以て從て印刷事項に就ては自己の腦中先づ確たる証證を得る所あればなり

予は今日普通學校に於て數字的の腦力を養成すべき記憶力の効果如何に就て大に疑を狹まざるを得ず、感化學校に於て此方法を採らざりしは蓋し此点に於て鑑みる所ありたるならむ、禮法倫理學英文學の各階級には生徒四百五十人語學算數の科目には生徒百三十人以上二百人あり、何れも非常なる長足の進歩を來たし、唯夫れ講演者の言語其物は彼等の智識の關鍵なり、理論の闘争は經驗自説の交換媒介として大に顯揚せられ、從て正義の要求する所を知得するに至る、一ヶ月一回の試験は大に彼等をして苦心激勵せしむる所にして之が爲めに將來の運命を支配せらる、万一不幸にして失敗を來たしたるときは當に以て譴責若くは將來の注意を促かざるゝのみならず百點中七十五點以下の點數なるときは標點を失ひ從て其の結果として刑期の延長を來すの虞あり、然りと雖も標點は次期の試験に於て完全なる成績を得れば再び之を得て上級に進むことあるべしと雖も、多少刑期の延長せられたる點に至ては復た回復するに途なし

學校の補助機關としては書庫及び「サンマラー」なる定期刊行物あり、書庫は今日に於ては甚だ廣大ならずと雖も十八個月間に四千部の書籍を蒐集したるを以て爾后年月の經過に伴ひ漸次多數となること疑を客れず、四千部中千二百五十部は教育に關する書籍、千部は論理及び宗教、三百部は歴史、二百五十部は傳記二百部は學術及び美文學七百部は小説戯曲等なり、此他尙月次若くは週次の定期刊行物の雜誌等堆積増集し來り殆んど書庫の半以上を占む、寄贈の雜誌は何れも皆教育及學術に關する論稿にして各週二日間之を開き生徒の閱覽に供せしむ書籍は總へてこの學校を卒業したる第一級囚に位する者に限り一週一回雜誌と共に閱覽するを得るものとす、小説の必要なると論を待すと雖も其効力は歴史傳記美文學と共に之を讀むに至て一層顯著なり、其選擇方法に至ては、十分なる注意を施すに非ずんば却て鄙猥の心性を養成するの嫌あるを免がれず、要は選擇の如何に在て絶對的に小説を非とすべきに非ず、エルマイラ感化監獄に於ては、スコット、バルウアー、デッケン

ス、トリーバー、ナウシー、ドゥーマー、ヒューゴー、ステツプニヤ、ゲーラー、ハイネー、ハイゼー、ウチスラー、オイエルパツハ、エーベルス、エーツバー、グラント、プロート、ベルラシー、マツクス、オーレル、ステープンソン、クラドツク、マートクトウエーン、スカツダー、バツターウオース、バルレンチン、ブルツクス、オブチツタ、ケーブル、ストローチー、アルジャー、エパンス、アルコツト、キング、サツカレー等知名の文豪の書籍に非ずんば之が看讀を許さず

「サンマラー」は監獄刊行の新聞としては恐らくは卒先者たらむ、七年前よりの刊行に係り毎日曜日の朝同囚に配付する所のものとす、是れ全く囚人一般の觀念を養成せむが爲めに設けられるに過ぎず、此新紙八頁には地方時事説教及學校の講授科目世界の近況殊に罪囚問題に關しては注意して掲ぐる所あり、其記載事項たるや監内監外に論なく時としては囚人交通の機關研究の場裏とあり、時としては社會學文學其他の學術に關し雜誌新聞の摘録を掲ぐることであり、之が爲めに囚人の利益を買ひたること亦鮮しとせず而して刊行は總へて囚人の掌る所とす

精神の修養は局限的に非ずして永久斷へず之を爲すに在り、彼等囚人相互の交通並に官吏との交通は善の爲めに善事を行ふの觀念を養成し決して祈禱若くは假面的の行爲に依り善事を表彰するものに非ることを知得せしむるに在り、尙彼等に對し最も重大深刻なる感覺を與ふる所のは官吏に對しては從順ならしむるの点なりとす、此從順行爲は自己の氣儘なる感念を去り紀律ある善行に復せしむるの習慣を養成し他日良民たるの基礎となる者なり正理と從順とは此關係に於て犯罪者特に累犯者を遇する上に於て最も緊切相離る可からざる要具

にして、道德の觀念の胚胎する所亦茲に外ならざるなり、然りと雖も理論的道德の觀念は其の種子を蒔かずして収獲を得る能はざるなり、各日曜日の午前は倫理に關する實際問題を討議せんが爲め四百五十拾人の衆因講堂に集まり熱心に論辯駁撃を試む、聽講者殆んど六百名ありて中級初級生の第一級（階級法）に位する者は此坐席を占むることを得、而して依て得る所の利益亦尠小に非ず、其議事の進行如何の情況は到底本誌に盡すべきの限に非ざるなり、午後に至てはエルマイラ寺院の牧師より倫理哲學の講演あり、向下級に位する者に對しては平易學科と名つけ極めて卑近なる例証にて倫理學を講ず、斯の如く宗教の公開は獨り同囚の範圍内に限定せらるゝのみならず、監獄書記及び傭に至る迄何れも聽講自由にして、盛んに祈禱儀典を行ひ以て安息日の趣旨を全からしむ、其他尙ローマンカトリック、ヘブリーユ諸宗派の僧侶來りて其の歸依因に向ひ個人的教誨を施すことあり尙將來此日曜教誨に對しては普通説教と同一く音樂其他の儀典を舉げ以て道德觀念を養成發揚せしむるの策を講せんと謂ふ

（未完）

●監獄巡閱官の出張に就て

洋々散士

近來内務省より判任官を以つて巡閱官とし、各地方監獄を巡視せしむること屢なりき、各地方監獄當局者の感情如何散士聊か耳にする處あるを以て爰に巡閱官の出張に就て論ずる處あらん、抑も巡閱官とは如何なるものなるか内務大臣の命を奉じて府縣監獄を巡視するものは凡て巡閱官なり、何となれば法文上之が資格に就ては

何等の制限なきを以てなり、舊法には明に内務省參事官を以て之に當らしむとありたれども改正監獄則は之が規定を削除せられたり、故に規則上内務大臣は判任官を以て巡閱官と爲すことを得るや固より差支なし、又判任官と雖も巡閱官となりたる以上は之を待遇する宜しく巡閱官を以てす可し、然れども法文上巡閱官の資格に就て何等の制限無きを奇貨として、續々判任下級官吏をして各地方の監獄を巡閱せしむるは實際上不可なきや否や法文の區域廣大なるものは之を活用するに依て愈其の効用を顯はす、若し之を不可なる處に應用せば却て弊害を來す事あり、予置け法文上判任巡閱官は勿論雇員若くは他局の屬官を以て巡閱官とするも違法にあらざる雖も、是等のものを巡閱官とするは實際上釋當ならざる點多々あり、請ふ試に之を論せん、第一現今監獄の地位は如何舊官制に於て判任典獄たりしものは改正官制に於て奏任官となりたり此の如き奏任典獄の統御する監獄署を内務省の屬官たる下級官吏が巡視して其の非を摘發し若くは諸般の取調事項を徴し或は注意事項を示すが如き事あられ奏任官たる典獄若くは高級の課長等に於て心に快き歎、自己と同等若くは同等以上のものに其の非を摘發せられ若くは種々の注意事項を示さるゝ事あるも不滿の念なきは勿論之に心服するものなりと雖も、自己より地位の以下なるものに種々注意事項を示さるゝが如き或は非を摘發せらるゝが如きは實に心に快からざるものなり、蓋し典獄と權衡を得ざる最下級の官吏を以て巡閱官とするの弊なり、第二判任の巡閱官たるものも其の身判任の最下級なる爲め諸般の取調事項に就て自然謙遜に陥り盡さるゝ事あらん、或は強く詰問するが如きは氣の毒との或念を懷き遠慮する事あり之が爲めに充分の調査を爲すこと能はざるを以て從て内務大臣に不完全なる復命を爲すに至るの弊あり、第三若し判任巡閱官にして第二の遠慮を爲すに非ずして續々詰問等を爲し或は非を摘發するときは、之が爲めに非常の惡感情を懷き判任巡閱官を目して内務省より

の穴探と爲し蛇蝎視するに至り之が爲め却て内務省の威嚴を失墜するの恐れあり、第四、或は屬官にして初めて巡閱官として出張するときは其の身地位の低きにも拘はらず他に巡閱官なる一大資格を有する廉を以て殊更に威嚴を示し威氣揚々傍若無人の舉動を以て、剛然として諸般の取調を命ずるが如き事なきにしも非ず是又内務省の尊嚴を失墜するものなり、以上の如き種々の弊害あるを以て判任の巡閱官を出張せしむるは實際上甚だ不可なる所以なり、殊に雇員を以て巡閱官となすが如き事あらば監獄の尊嚴をも失ふに至るの恐れあり、故に法文上に就て資格の規定なしと雖ども實際上に於ては監獄巡閱官は、監獄事務官を以て之に充てられんことを冀望す、殊に現今監獄事務官は實驗上及學識に豊富なる小河岳洋君のあり、斯の如き經驗家學識家にして府縣監獄を巡閱するあらば各典獄諸君悦んで之を迎へ不可なる點は充分の注意あらんことを懇願し、注意を受けたる點は一言半句と雖ども寧ろ服膺し獄務改良を促す事明なり、然れども現今監獄事務官は官制上一人なり此の一人の事務官を以て毎年日本全國の監獄を巡閱するは甚だ難事なり、故に屬官等を隨行して巡閱するは固より可なり尙止むを得ずんば監獄局判任最高級たる課長を以て巡閱するは尙一步を譲る可しと雖ども雇員又は判任最下級の者若しくは監獄局以外の屬官を以て監獄巡閱官とするは斷じて散士の贊同を表する能はざる所なり、散士は望む監獄局に奏任の監獄巡閱官なるものを少くも二名常設せられんことを冀望するものなり聊か蕪辭を草して官制の改正を俟つと云爾

附言 一日山崎君子に示すに本稿を以てせらる、予受けて之を一讀し、大体下級の屬僚をして巡閱官たらしむるを非とするの意見に至ては予全く同意を表せざるを得ず、然れども其の論旨に至ては往々予の意と合さざるものあり、蓋し今日予が親愛なる僚友諸君に於ては毫末だに氏の豫想して列擧したるが如き事實弊

害なきは山崎君子に予の確信して疑はざる所なればなり、唯夫れ斯の如き弊害なしとするも、勳位、利祿、地位、の俗界を支配する以上は、巡閱官も相當の吏人を撰ばざる可からざるの必要あり、予が如き下級謫劣の身を以て之に當るは蝗螂の斧に向ふが如く實際何等の裨益だになきは予自ら茲に之を自白して憚らざるなり、予曾て二三縣を巡視したることありて其の當時自ら予の頗る不適任なることを曉りたることありき故に予は一層山崎君の意見に同意を寄すること深からざるを得ず、巡閱官としては勿論屬僚は不適任なるも或事件調査の爲め特に出張せしむるは差支なきのみならず、却て屬僚當然の業務ならひか我輩は内務省に於ても巡閱官としては屬僚以外に適當の人士を求められんことを望む、故に一言茲に附記して同意を表す

印南 於菟吉識す

雜 錄

●典獄會議

(多分は四月下旬か五月上旬に在らむ)

毎年地方官會議は三月開會せられ引續き警部長典獄會議を開かる、例なりしが本年は臨時選舉の爲め地方官及警部長會議を繰上げられたるも典獄會議は失張り四月下旬が五月上旬を以て開會せらるゝならむと聞ふ、

○監視假免に就て

(其の活用を動かしむべし)

同會議は専ら條約改正施行準備の打合せ其の他監獄に關する重要な事件を諮問せらるゝ筈なりと、併し今日に在ては尙ほ未定に屬し多分は例規の通り召集せらるゝならむとの想像に過ぎず

假出獄に依り其特別監視の満期となりたる者又は減刑等に依り放免となりたるものは附加刑監視の長期なるもの甚たしとす尤其の内に就き行狀尙ほ修らずして監

視するの必要あるものは論なしと雖も比較的は是等の者は行正しくして正路に就き再犯の虞りなきもの亦少なからず如斯者に對しては長期間監視の執行を爲す必要なきなり否單に監視するの必要なきのみならず動もすれば是れが爲め其の職業若しくは處世上に於て不利不便を醸し悲境に沈淪せしむるなきを保せず彼の監視假免の方法たる是等歸善の良民を保護獎勵するの策にして其活用宜しきを得當に彼れの福利を圓滿ならしむるのみならず刑罰執行の實質を定むるものと云ふへきなり然るに竊て監視假免の實行如何を見るに一に警察署長若しくは駐在巡查のみに任し其の監督等に在ては大に欠くる處あるものゝ如し近來假出獄ば當局諸士の盡瘁に依り稍々其の活用を見るか如し監視假免に就ても亦斯の如くならざるを得ず余輩の切に當局者に望む處は知事併に警部長に對し嚴重に之か活用勵行を訓諭せられんことを

○押送途中所持金品の費消に就て

(警察官吏に注意を要す)

警察傳遞等に依り押送し來る囚人及被告人の酒氣を帶ひ又は所持品の目録に對し過不足あることは往々予輩

らんかと憂慮するものあり我輩は斯かる不紀律の裝行あるへしとは素とより信を措かされども四月一日よりは無論のまど今日に於ても如此風説の流布して我輩の杞憂を醸すか如きことなきを祈る

○視察表及行狀表に就ての注意

(登記に吝なるへからず)

行狀表や視察表を一見する時はいつも不動文字的の記事多くして特種の行狀行為なきか如し却て之を看守長看守に個人的行狀を問へば曰く彼は何日に經死を計りたるとありこの源由は鬱鬱狂なり曰く彼は何日に老母の接見に於て悲泣涙涕大に感ずる處あり其後は二ヶ月間の今日に至るまで常に悲しみ前非後悔の狀顯著なり曰く何、曰く何と語て際限なし生記録にて行狀を勘査するものなれば又何をか云はん苟も身分帳活用の今日に在りては今少し注意あらまほしと或る人は語れり

○下駄の片足逃走を企てしむ

(苟も看過すへからず)

不審を不審として其儘に放任すへからずとは看守職務上に於ける一の缺言なり監房劍喙の音と聞へしも克く之を糺せば鼠の隙子を繋る音にて一笑の價值だになき

の耳にする處なるか右は孰れも押送巡查に強ひて己か意を逞ふするものにして押送巡查も亦無事に押送の任を全ふせん爲め默許するものなるへし是等のことは其の不都合なるは寔に看過し得へきことにあらざれば監獄當局者に在ては大に苦慮せらるゝ處なるも警察監獄各主管を異にするか爲め未だ全く此惡弊を杜絶したりと云ひかたし然るに今般押送規則の改正に依り警察署長若しくは分署長は押送中の刑事被告人に對し必要物品の差入購求等を監視の規程に依り許可し得ることとなりたるは頗る美事なりと雖も前述の有様にては美法却て惡弊を助手せしむるの虞れなきにあらず監獄當局者は素より其筋に於ても爰に注意し警察官署に對し押送規則の勵行を期せしむるの覺悟を要す

○典獄服裝

(杞憂ならは幸ひ)

典獄服裝革新の期も間近くなれり今日に在りては制服を着用するゝ向は少なきやに聞けり又制服を着用せらるゝと雖も日々は着用せず或時にフロックコートを着し或時は制服を着用する等謂は、各自儘の姿なれば彼の看守長の服裝始終一定儼然たるに比し紀律上如何あ

様なれども之れを審明せざるときは不時の大事を惹起すことあるへし、特に工場や監房の外に放棄しある手拭、下駄其他囚人常用の物品あれば嚴に其の出所を糺明するは勿論移時たり其斯かる場所に置くへからず、曾て逃走に巧みなる囚人の話を聞くに曰く近來監獄も追々嚴重になれり然れども逃走し易き監獄と逃走の出來ぬ監獄とは直ちに見分けも付き易し如何に巡回警遍か頻りなりと雖も逃走を爲すには左程苦にも思はず只小氣の付く看守こゝろ恐ろしけれ、此度逃走したる某監獄も至極嚴重なりしか裁判呼出のとき見るに外圍に沼澤内溝に下駄の片足落ち居れり只何の氣も附かざりしか翌日も尙其下駄は其儘にありたり依て想ふに若し此所より逃走し下駄を捨て置きても下駄位にては踪跡も急には氣が附かざるべし此監獄は逃走容易なり若かず機の來るを待たんと夫より十日計りして已決監に來り夕刻行剛の際板塀を乗り越へ逃走せり此度は當所にて厄介になりまます云々と語り了て平然たり

嗚呼下駄の片足逃走を遂行せしめぬ其の監獄の不整理は左こそと思わるれども此一事を以ても看守諸士平常注意する所なる可からず參考の一助として爰に掲ぐ

○年齢の危険時期

(當局者果して如何の感ある)

「サイヤンス、シフティングス」の記事に依れば統計學上男子の貳拾九歳は犯罪實行上最も危険なる年齢なることを證せり、人一たび該年齢に達すれば管に体力の旺盛を極むるのみならず智育德育の發達十全なる域に在りて此時期に於て犯罪を行ふは頗る怪むに堪へたりと雖も此事實は獨り多數人士に依て證明せらるゝのみならず少數犯罪者に於ても亦之を證明するに足ると云へり然れども是れ亦刑事學者の一疑問とする所にして貳拾壹歳貳拾九歳四拾五歳の年齢は漸次犯罪を減するものなりと謂ふ論者あり知らず當局者果して如何の感ある、

●身体搜檢の嚴正を期すべし

(往々形式に流るゝの弊ありて謂ふ)

就役罷役の際身体搜檢を行ふの規程は其の之が爲めに時間を要することゝ煩雜に堪へざるよりして往々粗忽に流れ易く唯一場形式に過ぎざるの有様となりしことあるは毎々吾人の聞く所なりしが、果然之に依て被等兇奸の囚徒は、搜檢の不十分なる目を偷み、逃

走を計らんとしたる實例を發見せり、そは假令工服役の四人にして飯を飯粒にて足裏に貼り付け以て破獄の用に供したりと謂ふ、今更事新しく搜檢の必要を繰返す迄のとは非されども、實に破監逃走の大部分は搜檢の不充分なるより來すの弊にして之が爲めに時間を費す謂ふは畢竟不慣者の言ふ辭にして、現に千有餘人服役囚罷役の時間を計りたることあるに僅かに三十分にして總へて還房の手續を完了したる府縣渺ならずし(固より工場の遠近に依るなれど構内なれば何れも格別大差なからむ)されば少しく慣るゝに従て搜檢の爲に費すべき時間とて別に甚しく要することあらざるべし、戒護事務に従事する者は此点に就て今一層嚴正ならむことを望む

●監獄會計の整理

(監督を嚴にせよ)

先年監獄會計事務に關し二三の不始末ありし爲め各地方ども大に警戒を加へたりし其の結果として、近來頗ど風評をだに聞くことなかりき、所謂雨降て地疑るの謠に違はず、誠に監獄の爲めに喜みすべき事なりしが此の頃思はしからざることを耳にしぬ、各監獄ども充

分會計上に關しては監督を嚴にし主任者にのみ之を放任せしむるなく注意にも注意を加へられんことを望む例へば金庫の開閉杯には必ず出納官吏自ら立會ひ領置金入別簿は二箇月に一回位は出納傳と実合はせ、監獄雜收入杯には傳票金券等と実合はせ苟くも現金有價証券に手を觸るべき場合には出納官吏自ら之を爲すの注意を施し尙支拂命令官吏の印類杯は容易に他の者に渡さざる様注意ありたし、此の位の注意は既に各地方到る所皆實行せらるゝ所なるも、粗略の程度は到底吾人の知る能はざる所なれば、幾重にも注意あらまほし由來監獄にして斯の如き失態あるは誠に面目次第もなきことと謂ふべし

●監獄の統計

(報告例改正の詮議は立消の姿)

我國に於ける監獄統計の不完全なることは既に數年前よりの輿論にして其の筋に於ても内務報告例を改正するの詮議ありて過般來報告様式も脱稿し今や發布せんとせられし趣を聞及びしが、其の後尙未だ不充分なる点あるを發見し昨今調査中なりと謂ふ、何れ改正報告例の發表は今後尙一年餘をも費すならむ、夫れ迄の關

便宜小改正を施す点ありと謂ふ、そは犯數の區別犯罪年齡の時期等に在りて、是等の事さへ監督官廳に於て不明なるは如何にも監獄統計の不完全なるを示すことなれば早晩其の改正を見るべしと謂ふ

●在監人に宛てたる書籍

(典獄自由に開放することを得)

在監人に宛てたる小包郵便に關しての取扱方法は本誌前號に記せし次第なるも書籍に就ては監獄則上許されたる次第なるを以て典獄に於て自由に之を開放することを得べきは勿論にして、多くは各府縣とも其の取扱方法になり居れり、此点に就て疑を狹みたる者あれば特に茲に之を掲げ置きぬ

●來年度の追加豫算

(建築費補助法案學校設置は廢案)

議會解散の結果として來年度の豫算是本年度の分を其儘費用することに勅令を以て發布せられたり、然れども官制に依り監獄局を設置せられたる經費の如きは追加豫算として提出せらるゝ筈なりと謂ふ、監獄建築費補助法案、監獄學校設置の如きは追加豫算中に組入れられざりし、如何にも残り惜しき事とは云へ兎に角監

獄局の膨大は經費に伴ひ振張刷新を見るを得へきは實すべき事なり

●獄事茶話會

(神田美土代町青年會館樓上に於て)

主として小河岳洋氏の發起に係れる獄事茶話會は客月二十九日午後一時より基督教青年會館樓上に開かれぬ幹旋者としては原胤昭中村襄の両氏をも見受けぬ、來會者五拾名以上に涉り、割合に室の狹隘なりしは隨意放談の趣旨に反むき遺憾なりき、來會者中重なる人々は長屋矢部若山綾部の四典獄を始め留岡幸助若山本徳照君(三好君の設立に係る感化院事業に従事せり)内務省監獄局員、石川三三君(神奈川)横江勝榮杉本壽幸郷原増之輔奥村嗣次郎松田相尹神尾虎之助加藤勝二郎(以上警視廳員)の諸氏其の他尙全廳より來會者數名ありたれど一々氏名を覺へず、東京集治監よりは河村稻穂氏埼玉縣よりは松隈健二氏、群馬縣よりは坂口慶吉氏の遠路にも關はらず來會するあり其に有朋自遠方來不亦說乎の趣味ありて中々に愉快なりし

午後二時頃此の會の發起者小河氏先づ起て簡單に開會の趣旨を演じ而して留岡君起て氏の實驗觀察に係れる

條件付裁判所謂刑の執行猶豫に就て續々沿革を述べ而して斷案を下だして曰く結局此制度は不定期刑制度と共に監獄の欠点を補はむが爲めに發達助長せしめざるを得ずと絶叫し大に聴者の耳目を聳動せしむ、小憩後小河君は再び起て近世歐米諸州犯罪學研究の傾向は未成年處分に在るを説き延て刑法改正草案に對する二三の管見を立論し引証該博刑法中監獄に關する法文の不充分に於て且欠点多きと等を列舉し姑く是等を一の疑問と爲し後日諸君の研究資料に供せんと言放ち其餘地を存せしむるの老手腕、駁論の要を得たるものと謂ふべし、次に山本徳照君は自己の従事する所の未成年者犯罪増加の傾向に就て慨切痛論し人をして不知の間に案を叩き斯事業の最も緊要急務なるを曉らしむ、最後に臨んで原胤昭君の自己の經歷談より四人處遇の点に就て三四の意見を述べ直接斯道者に對するは意欲と警戒とを加へぬ、氏の説述は斯道者に取りては意想外にして且最も緊切なりと思料せしを以て別項に其の要領を掲げぬ讀者就て一覽後日の鏡と爲すを要す

主客の別なく各自膝を交へ隨意に款晤を爲すは本會の目的とする所にして尙二箇月に一回位は隨時開催する

都合なりと謂ふ、款語の間幾多の有益談話なくんばあらず、監獄自体の進歩は多く此邊に存するものなることを知ると同時に我輩は此の會の逐次盛會ならむことを希ふものなり、各自散會したるは午後四時過なりき、聞く所に依れば爾後有志の諸氏は西洋料理三河屋に於て晚餐會を催ふしたりと謂ふ

○作業上四人使役に於ける注意

(原胤昭氏の實驗談)

氏は茶話會に於て語て曰く

今日出獄人保護の事業に當れる予は會て教誨師たりし時に際して想像を抱き事實を假想したる事の非なるを曉るごと毎々なりき、今其の二三を舉ぐれば左の如し

(一) 囚人は素品を粗雑に取扱ふの習慣あり、監獄内に於て彼等の役業に服するや十分の素品を供給せられ自由にて之を使用する一の製品を作成するものなり、例へば一個の机を製作すると爲さんか、之か爲めに要すべき概算の寸尺に見積れる材木を受け面して後その製作に従事す、故に多少の餘裕ありと雖も是は切れ端と稱へ臺屑中に投入するを例と

す斯の如き風習に馴致せられたる囚人は出獄後に追んでも、習慣第二の天性となり容易に脱すると能はず、是等の一小片を利用して煙草入其他の小箱を製作するの經濟的思想浮はず、總へて監獄製作品の如く塵埃に漢屑と爲すの風習あり、是等は單に其の一例に過ぎずと雖も總ての職工に對し万事かゝる不經濟のことに慣るゝを以て備主は遂に不平を吐き其の結果解僱の已むべからざるに至ることあり、此点に於ては授業手其他の監獄官吏に於て平常より宜しく注意せられたるものなり、嘗に四人個人の上に於て將來を慮り都合よきのみならず、監獄經濟にも適したることを謂つべし

(二) 出獄者は命令以外の動作を爲さず、是も亦特に囚人に限りたる一の弊と謂ふべし、囚人は監獄内に在て一定の規律の下に運動し役業を探るに當ても所謂命令通り之を爲し命令以外に一步も踏出すことなし例へば或個所の修繕を命じたるときは其の指定個所の修繕のみを爲し、縱令其の近傍は如何に大破するとも之に對して一指だも染めざるか如し、此等の舉動たるや、備主の感情より云へば寔

に不親切極まれる所業としか思へず、實際出獄者は左る感念を保たず習ひ性となり、命令に服従するの結果所謂氣轉利かざる一種の痴者たるに過ぎず、之か爲めに意想外の奇禍を買ふと毎々なり、斯の如き笑なからしめんことも亦授業手看守其他の監獄官吏の宜く注意すべき点ならずや

(三) 出監者は無暗に他人の草履を穿つの笑あり、是れは一項事に過ぎざるも亦以て出監者の如何に監獄思想を脱却し得ざるかを知るに足るべし、茲に數人の職工あれば出獄者は最も速かに出で最も能き草履を穿つの癖あり、是れ全く惡意を以て爲すに非ず、監獄内に在ては服役の際他囚の草履と雖も狼りに穿用するを許すが故、自然此の内最も能き草履を撰び草履引換杯と稱し看守の怒を招かざらん様注意するを以て遂に此の如き風習となるに至れるなり、是等も亦一定の草履を穿用せしめ、自然に破損したる者杯に對しては穩かに引換ふるの注意ありたきものなり

以上は僅かに其の二三の梗概を擧げたるに過ぎずと雖、要するに出監者は此の如く一種の監獄思想あるを以

て之か爲めに僭主より不慮の思惑を受けること尠ならず、故に予は諸君に向て囚人を遇する上に於て常に彼等をして他日良民となりて生存競争場裡に立ち得るの準備を與ふるものなることを腦中に置き而して後相當の遇御を與へられんことを望む云々

吁、寔に至言と謂ふべし、斯の如き言は經歷に依るに非ずんば容易に發し得べきに非ず、多數の監獄官吏は此言に對し殆んど意想外の感起し、事實亦然るべきを悟りて頷かむ、我輩は原君の說話に同情を寄するの餘り監獄官吏殊に授業手看守の之に注意せられんことを切望せざるを得ず

○密室監禁に就て

(監獄の不備を補ふ一方法なり)

我邦現今の狀態に於て尙監獄内密室監禁を要するは我輩の痛嘆に堪へざる所なり、密室監禁たるや結局理論の上に於ては不當にして此種の如き別に特種の構造建築物を要せざるなり、監獄内未決の囚徒を拘禁すべき所は何れも皆今日の密室監禁と同一の狀態にて可なる筈なり、然るに監房に至る所概ね雜居混同たるを以て此弊を救はむが爲めに密室監禁を設くるの止むを得ず

るに際會せり、言を換へて云へば密室監禁は監獄造營物の不備を補ふ所の一方法にして之を以て古昔の拷問の遺物として嘲罵するは其實を得ざるなり他日若し幸ひに監禁の建築拾く行はれ分房監の續出するに至らば勢ひ密室監禁の不必要なるを感知するに至らむ、我輩は密室監禁の法制其物に就ては異議を唱へず寧ろ事實として今日その設備を要するあるを悲む、聞く東京辯護士會に於ては密室監禁を廢止するの說出で多數の賛成者ありと、我輩も亦廢止論者なり、然れども今日の狀況にては廢止するの不可なるを唱ふるものなり、監獄の改築十分なるの暇を待て而して後之を唱へむ、空論に趨るの弊事實を抹殺せしむる勿れ、今日の被告人に在りて罪惡傳播し易く証憑湮滅の虞あるは吾人の往々耳にする所ならずや、其依て來る所を採知すれば密室監禁の愈々必要なるを曉らむ

○賭博密賣淫の取締

(酷待の主義を採るべし)

關東の賭博開港場の密賣淫は其勢猖獗にして到底警察權を以て之を撲滅し得べき限に非ず、警察權は唯その風俗を紊亂すること甚たしき者に及ぶに過ぎず、事實

また是にて可なり、微罪瑣行をも尙許きて以て直と爲すは警察の本義に非ず、斯る風俗犯に對しては我輩は警察權の微弱なるを信するものなり、從て監獄の是等の囚人を遇する勿論嚴酷ならざる可らずと雖も、其効能は毫も見ること能はざるべし、僅に十日以内の拘留にて犯人の改心を見んこと到底覺束なし、さりとて監獄は其を放棄すべき限に非ず、かゝる微罪囚短期囚に對しては頗る嚴酷懲罰の主義を採るを要す

密賣淫に就て近刊の社會雜誌は東京府下に於ける計數を掲げうの評論を試みられたり、今その犯數を見るに

初犯	再犯	三犯以上
密賣淫 一、八三三	八四八	九四〇
媒合 五二二	二七七	二四四
客止 三〇七	一一三	六一

(以上二十五年乃至二十九年間五ヶ年間總數を示す)

而して再犯三犯以上を合算すれば殆んど初犯と同數に達するに至りしか如きは抑も刑罰の効力なきに庶幾しども附ふべき次第なり、是れ獨り東京府下のみならず各地概ね此の類ならむ、故に監獄に在ては何處迄も嚴

酷に待遇し以て刑の恐るべきを感知せしめざる可からず

然りと雖も賭博密賣淫の如きは警察監獄の力を以て之を矯正し得べきに非ず、社會一般の風俗教育にして進歩するに非ずんば著しく其数を減少せしむる能はず、見よ上州の野に在ては賭博は左まで惡き事と思はざるに非ずや、四國地方に於ては良家の子女すら淫を賣り所謂旦那を有する者を働かざる唱ふるに非ずや、是等は到底強制的の權力を以て左右する能はざるなり、監獄は唯うの著しき者に就て嚴罰を加ふるのみ

○近時犯罪の傾向

(風俗犯罪増加の傾向あり)

舊物價の暴騰に従ひ貧民増加し勢ひ財産に關する罪を犯す者多くなるとは免る可からざるの數なりと雖も、近時殊に憂ふべき傾向あるは猥褻姦淫等風俗に關する犯罪の多數なるに至れることはなり、蓋し戦後の餘波として社會淫靡に流れたるの微候ならむ、割合に財産罪の少きは軍夫等の迅かに富裕を來したるに依るべし、最も忌はしき限なり監獄に在ては吳々も是等の風俗犯罪は嚴酷に待遇するを可とす

○監獄の官舎

(婦人會の組織)

官舎とて兎角署員の構内に集合する場所に在ては其の間互に相反目嫉視するの傾起り易く延ては公の勤務上にも差響く委あるはうたてき限りなり、畢竟婦人の嘆舌に基ひするとは云へ、互にその心底を知らざるより思はぬ争ひも生ずることあり、此頃滋賀縣に於ては筒井典獄夫人發起となり婦人會なるものを組織し監獄署員の妻女六拾餘名集まり打解けて懇談せりと謂ふ、毎月一回開會して之れが爲めに婦人相往來するの煩を省き、且下らぬ風評を耳にして不平を醸す輩も尠なく婦徳を發揚せしむる上に於て頗る利益ありと謂ふ、我輩は官舎のある地方に於ては何れも之を實行し署員恰も一家内の如く圓満に其の交誼を全ふせられんことを望む

○刑罰の賣買

(果して此事あるか)

去る年十月の下旬北海道の某裁判所に於てある罪名の下に重禁錮一年三ヶ月の處刑を受け目下根室國龜田監獄署の鐵窓に繋鎖せられて苦役に呻吟する一箇の囚人

あり此者は函館に遠からぬ某漁場に住む者の由にて其罪は囚人自ら犯せしものにあらで同村の素封家が犯したるを某(乃ち今の囚人)に相談し一ヶ月三十圓にて罪名引受の約を結び巧みに証跡を作りて某自ら犯せし罪の如くに自首し遂に函館へ押送せられて罪囚となりたるもの、由にて刑期十五ヶ月に對する報酬四百五十圓は本人出獄の後之を渡す事となし尙入獄中妻子の養育は素封家に於て引受ける筈にて現に入獄者の妻某は其契約書を所持し居れりといふ果して信なれば奇々怪々の珍事と謂はざる可からず先には替玉事件あり今又此事件とは裁判官も今少し注意を加へられたきものにこそ

●女囚の社會觀

(附過囚の方法を異にすべし)

封建時代の風習はさて置き明治の維新より今日に至る迄我邦婦女の社會に對する地位はまことに奴隸的にして僅かに形骸を維持するに足る人類と認めらるゝに過ぎるなり近時教育の普及に従ひ或一部分に於ては僅かに此の境涯を脱したるか如き觀ありと雖も尙婦女の最大多數は封建時代と同様なる薄運の地位に在りて謂

はざるを得ず、生れて同じく人類たるも、天職の然らしむる所とは云へ男子は意氣軒昂當る可からざるの威風存し自ら他性を凌辱侮慢するの汚行あるも、尙婦女は七從の主義を守り如何なる無理難題も甘んじて之に服せざる可らざるの正理焉にか存する、概して女子は普通教育を受くれば裁縫又は各自の職業に従事し、相當の年齢に達すれば嫁せざるを得ず、嫁すれば直に夫に對し從順の義務を確守するに非ずんば一家の風波茲に紊るゝの一大不幸あり何事をも唯從順の二字こそ銘肝決して須臾だに忘るなかれとは婚嫁前母上よりの忠言、さては善にも惡にも無理にも非道にも夫の嚴命とありては一言半句も戻る可からず、而かも己が無二の夫とも戴く夫は如何に、淫酒乱行極まりなく職業は恬として顧みるなきを以て日に貧寒身に逼り飲食朝夕をも計られず、無邪氣の兒子は徒らに飢餓を叫びて母に綻るの風情果して誰が罪ぞ、妻は時に夫に對して諫言を試みるなきにしも非ずと雖も罵倒せらるゝの恐しさ、此處にも亦從順の義務なかる可からず、止むなく叫喚の兒子を宥めすかすの外途なし、飢餓に瀕したる者の如何でか止むべきや、遂に迫れば迫る程母も餘儀

なく一思案を運らし、端なく夫の繰言に思ひ當り呼喚の一刻那非命の死を遂げしむ、是も夫に對しての從順よ、而かも繰言の苦辱は母のみ之を受けざるを得ず私通は男女共に御法度、女子一たび男子の勧誘に遇へば之を峻拒すべきは當然なるも地方の風習若くは無教育の點环よりして強ち否ひ譯にも行かざる場合なきにしも非ず、之に應じて出産したる私生兒、夫の之を抛棄して顧みざる不人情は驅て遂に嬰兒を殺さる可らざる境遇に至る、而も繰言の苦辱は婦女のみ之を受けざる可からず、

一夫一婦は日本制度とかよ、吾が最愛の夫は如何に、他の婦と密會するとの類々、女性の持前なる嫉妬憤恚心は抑制するに由なく、殆んど狂したる如く既足の儘赴きて夫若くは密婦の住家に火を放つ、夫の亂行は咎むるなく而かも繰言の苦辱は婦女のみ之を受ざるを得ず婦人は社會上法律上無能力の地位に立てり、社會上に在ては一の準奴隸として虐遇せられ、法律上に在ては婦の權利は總へて奪はれて夫の犠牲となる、然るに獨り犯罪行為のみ其の責任を負はざる可らざるの理何れに存するや、若し犯罪行為の責任ありとせば又

社會上法律上相當の地位と保護とを與へて可なり、保障と地位とありたらむにはよも前上の如き犯罪行為もあるまじ、現に未丁年者は腦力發達不充分と認められ法律上二等乃至三等を減せらるゝに非ずや、腦力の點に於て婦と未丁年者と何等の差異がある、寧ろ婦の腦力は十二歳以上の懲治人と比するも敢て徑庭なかるべし、あはれ婦女の犯罪、放火墮胎故殺等何れも皆近因は男子の成す所、而して婦女は之に對して否定の權能を社會上法律上與へられず、已むなく其の行為を遂ぐるに至て、終に婦女のみ寒き監倉に配所の月を眺めざるの仕儀とはなるも、是も文明の徴候にや、如何に法律は男子のみの作成に係るるとは云へ、男子のみに利を與へ女子は常に薄遇の地位に在るとはさても不權衡の次第ならずや、若し強て是等の婦女に刑罰を科することを必要とせば、そは婦女の無智若くは抑制心の欠乏に在らんか、現行の法律上是も致方なしとて締めむも、我輩は監獄の取扱に於て是等の囚人に對しては所謂個人的過因の主義とやらを適用し専らその欠點を矯正せられんことに努められんことを望む、徒らに窃盜を累ぬるが如き罪質とは頗る其情を異にし、彼等とし

て是等の不良者に醜化せしめざる様爲すべきは監獄當然の職務なりと謂ふべし、然るに翻て現行の實情を顧みるに事大に之に反し獨り工場坐席を共にするのみならず、甚だしきは起臥寢食をも共にするの状況ありと謂ふ、女囚とて男囚と別に異りたることなければ我輩は此點に於て當局者の猛省せられんことを望む

海外監獄近況

●英國監獄の狀況

○感化學校及職業學校

英國の感化學校及職業學校視學官の第四十回千八百九十六年の報告書は近日國會文書として公にせられたるを以て去月一日の倫敦「タイムズ」に其概要を抄記せること左の如し

千八百九十六年十二月三十一日に於て視學官の監督に屬する感化學校及職業學校二百二十九にして拘留に處せられたる在校の少年總數三万四百四人内男二万四千八百四十五人女五千二百五十九人之を前年に比すれば男百十五人を減し女九人を増したり此外査問

職業學校の生徒三千百十四人前年より少きこと七十九人又右學校より賞狀を受たる生徒百九十四人なり一年間に感化學校へ入校したる生徒晝間職業學校生徒を除き七千八百十九人即ち犯罪少年の數前年に比し四百五十人を増加したるなり然るに前年は此學校生徒の數増加し生兒増加の割合より超過の事實を現し創立以來初て人員の制限を設たりしか千八百九十六年の總數に於ては漸次減少し毫も増加の傾向を見ず該一年間に感化學校より出したる生徒は男千百十七人女百八十六人内備役に就きたる者男四百九十六人女九十九人親戚に引渡したる者男四百八十八人女六十二人移民と爲りたる者男三十五人航海業に従事したる者九十三人兵役に就きたる者三十一人其他の人數は病氣又は改後の狀なきに依り退校を命じたる者なり又男十五人女二人病死し男十二人女五人失踪したり千八百九十三、四及五年の結果は出校生徒總數の内男七割三分女七割二分は良好の事實を示せり又職業學校より出したる生徒は四千三百八十四人内男三千四百五十一人女九百三十三人なり千八百九十三四及五年間に出校の生徒に就き行狀良好の者、犯罪し

たる者、疑はしき者、不明の者を比較するに男女ども八割一分は行狀良好の結果を見たり又感化學校及職業學校の練習船を設けたるは其目的専ら男子を海員とするにあり此練習船の成績良好にして多くの生徒善く勤務に服せり云々

○入監者の減少

ハワード協會の委員は犯人を遇するに入監以外の方法を持つことの至當なるを看破し罰金・警戒、假出獄條件附裁判等の諸制度を發達せしめむが爲め力を費せり「ウイクトリア」朝の監獄制度に關する傾向は實に是に外ならざるなり、故に重大なる監獄改良の問題は成る可く監獄をして經濟的に失費少ならしめんとの方策に在り、

若し拘禁時期長きに失し紀律をして嚴肅ならしむるときは勢四人一身の健康を損するに至り刑期以外恢復すべからざる害惡を被ひるのみならず忿恚と失望の感情とは愈々増嵩し犯人をして改心せしむるの困難なるに至る若し又他の一方に於て是等の事情を斟酌し四人改心にのみ意を専らにし寛容の處置を採らむ乎社會の生存競争場裏に立て營々屹々する所の良

民は一種卑劣の猜忌心を起し監獄は社會の秩序を保持するの恐るべき機關たるを忘れ自ら好んで犯罪行為を爲すの危險あり

茲を以て慈愛に富んだる懲戒の方法は極めて正理にして且必要なりと謂はざる可からず宗教の激勵鼓舞智育の發達職業教育の熾盛は何れも犯罪防遏の好方法ならざるはなしと雖も監獄は是等の方法を以て十分に犯人をして改心せしむべき適當の場所に非ず從て假出獄若くは少くとも條件附裁判の制度必要なりと謂はざるを得ず

○未丁年囚

ダイクトリア朝は未丁年囚問題に關しても非常に公衆の注意を喚起せしめたり未丁年者并に兒女の犯罪を爲したるときは法律に依り監獄に送付せざるを得ず然れども今日に在りては幸にして入監せしめざるの方針を採るに至れり是れ全くハワード協會盡力の結果に依らずんばあらず

○貧民子弟

成年囚と未丁年囚と區別するの必要あるが如く貧民子弟も亦普通の勞役場より分離し地方學校に入學せ

しめざる可からず是れウイクトリアン朝に至て近世行はるゝ所の方法にして最も進歩したる良法なりと雖も未だ完全と稱する能はざるは遺憾なりとす

此制に就ても亦大に注意を要せざる可らざるものあり則ち斯の如き大組織(大なき感化院の如き)に在ては種々免る可らざるの弊害紛なからざるを以て品行正良にして上級に在る者に對しては寄宿制度の主義を採り相當の監視の下良民の家族と同居せしむるの方法は最も適切にして且必要なりハワード協會は亦此點に於て盡力したること鮮からずこの兒女の家族的制度はシエツフィールドに在る分離家族パンステツド其他に在る集合家族の如き其一例ありシエツフィールドに在る者に至ては其成績頗る觀るべきものあり學校寄宿制度分離家族等は何れも各々利益ある方法にして亦何れも相當の監視を加ふるの要ありと謂ふべし

○條件附裁判の制度

マサツチュセツト州に於ては監獄并に感化院に兒女を送らずして其の犯人并に兩親を監督し且家庭教育の發揚を期せんが爲め特に監督官吏を任命せり此の

如き制度は蓋し英國に於ても必要ありと謂ふべし據州に於ても亦適當なる範圍内に於て之を實行し好果を奏せり

不必要の入監を避くるの一策として千八百八十七年に於て初犯條例を發布せられたり是れ亦「ダイクトリア」朝に於ける治政の一とす然れども判事并に行政官は個人并に社會に對し殆んど之を活用するの途を熟知せざるものゝ如し故に該條例の必要は現時よりも將來に對して尙有要なる効果を見ることあるべしと信ず

○殺人罪及死刑

極惡なる犯罪中實際に且人口に比例して減少したる犯罪は實に殺人罪なりとす死刑は今日に在ては最惡殘虐の犯罪に對してのみ行はれ而かも公行の制は廢減に歸せり

ダイクトリア皇帝踐祚の前年(千八百三十六年)に於ては英格蘭及威爾斯の人口千五百万人に對し死刑者十四人を執行したりしも千八百九十五年即ち戴冠式六十年祭の前年に在ては又死刑者十四人を執行したりしも三千百万の人口に對して之行ふに過ぎず故

に半數以下の減少を見るに至れり、殺人罪を犯したる者も亦千八百三十六年に於ては七十三人なりしも千八百九十五年に在ては僅かに五十八人に過ぎず

○監獄の監督法

千八百七十八年に於て中央政府の監獄監督方法は極めて良成績を奏したりと謂ふべし現今に在ては各階級の官吏に對して監督法十全に行はれ爲に得る所の妨礙鮮なからず殘酷腐敗の方法手段は會てより稀に見し所なりと雖も本年に至つて尙一層の減少を來せり監獄の數も亦二分一に減少し其他尙一小事の改良(看守長に犯罪者人相側知法を研究せしむるが如き)だに之を忽にせず殊に近時に至て最も發達進歩したるは看守學校の設立に在りとす

○女監訪問の婦女

マーマウス監獄はガラ、マートン貴女の女囚訪問に熱心なるを賞賛し之が爲めに大に改善を施したることを公言せり實にアラ、マートン並にエクサベス、フライ(現代の初業)の如き女士は有數の女傑と謂ふべし今日に在ては英格蘭并に威爾斯の地方監獄に於て六十八人の女監訪問の婦女を任命せり(此事に就て

は豫てハワード協會の幹旋する所あるに依る)然れども未だ女監全体に及ぼす能はざるを憾とす

○婦女の慈善的事業

婦人の勢力愈々益々増大となり或は貧民の監理者となり或は學務局の會員となり或は又警察の補助機關となりて大に慈善事業を擴張するに至れり殊に警察上の爲めに婦人をして保母監督の任を全ふせしむるが如きは大都府に在ては極めて必要なる事とす

○教育及寺院

千八百七十年發布の普通教育條例は疑もなく犯罪防遏に探りて至大の効力を與へたるものなり之が爲めに營に入監者の人員を減少したるのみならず尙罰金及罰戒の刑を受けるものさへ少數となり感化院授職院に入る者其の數を減せり加之先に入監の重刑を受けし者は漸く減じて今日は罰金訓戒の輕刑に止るに過ぎず之を以ても一般犯罪防遏の効力を奏したることを知得するに足らむ

佛蘭西及墜州に於ては一般に宗教的教育を施さるるを以て犯罪を減少せず故に近時之に向て改正を試みんとする者あるに至れり英國に於ては各地大率聖書

の教育を施すを以て之が爲め亦犯罪減少の一大誘因たらずんばあらず

(以上昨年十月刊行ハワード協會雜誌)

譯 譯

各國獄制實話

加地鈔太郎君譯

●伊國に於ける工錢の制

●アンコーヌ懲役監

囚人入監の際所持し又は在監中其家族より送付したる金銭并に其作業に對し附與せられたる賞與金は囚人の所有金を構成す

此所有金を分て私有金及就業金の二種となし渾て監獄署の管理に屬せしむ

私有金を以て仕拂ひ得べきものは書簡、郵便税、家族救助金、下着又は靴下若くは自己の意思に出てざる無業の場合に於ける補足食品の購求代并に作業の不出來及物品の損傷の辨償金はれなり

就業金は之を補足食品の購求代に充てることを得又典獄の特許を得て家族及被害者の救助金、書籍、下着、靴下等の購求代に使用することを得而して私有金の缺亡する場合に於ては作業の不出來及物品の損傷に對する賠償金に充用することを得

囚人死亡したるときは就業金の殘額は之を保護會社に附與す

放免の際囚人の所有金を以て其衣服代并に其住居地までの旅費を支辨せしむ但し此費用を差引きて殘額三十佛に達せざる場合は此限りにあらず

衣服費は三十佛を超えることを得ず歸郷旅費を控除して所有金の殘額尙は二百佛以上に及ぶときに限り衣服費を五十佛にまで高むることを得所有金より裁判費用を支辨せしむることは決して之を許さず

所有金の殘金僅少なるときは之を出獄者に下付す其否らざる場合に於ては其浪費を防ぐか爲め旅行に必要と認むる丈の金員を下付し其餘は住居地の警察官署に回送し之をして漸次下渡さしむ該金員は又出獄者を看護せんと欲する保護會社に之を回送することを得

所有金殘額の多少は囚人在監の長短并に其從事せる役

業に依り同しからずと雖も其割合を示せば

在監一年ノモノ	十四佛二十山
同 二年ノモノ	三十一佛
同 三年ノモノ	四十九佛五十山
同 四年ノモノ	六十九佛七十五山
同 五年ノモノ	九十佛十山

他の監獄に於ても其制度大差なきを以て之を述へす

● 埃國に於ける工錢の制

● マリアノストラ中央監獄(女監)

四人の工錢は純益の五分一又は六分一とし此工錢を毎月加算して各囚の身分帳に記入す

工錢の一日平均額は六「クロユツエル」(我四とす)

品行善良なる女囚は其工錢の六分一又は七分一を補足食品の購求代貧困なる家族の救助金、郵便税臨時の署具書籍又は洗濯用品の購求代に使用することを得せしむ此等の費用の一々監獄署に於て之を監査せしむ故意に出る物品の毀損は工錢を以て辨償せしむ然れども裁判費用歸郷旅費若くは他の民事上の要求に係る費用に之を充ることを得ず

出獄の際囚人の需用に關係ある工錢の部分は之を囚人

一補足食品の購求代但し懲罰に處せられたるときは此限に在らず

二上長婦女の許可を得て家族の救助金、書籍、衣服、

石鹼の購求代并郵便税

他の一半并に其一年内に使用せられざりし費消金は出獄の時まで其儘に之を貯蓄すべきものとす之を貯蓄金云とふ

各囚の貯蓄金は之を貯金所に預入れ其預金帳は監督官之を保管す

裁判費用は勿論如何なる費用と雖も之より支給することを許さす必要闕くへからざるの衣服は囚人出獄の際該團體に於て契約に基き之を紳與せざるへからず

住居地までの旅費は強制的に之を送届くる場合は無賃なるも若し任意に出るときは囚人の工錢を以て之を支辨せしむ

工錢の殘金は現金にて之を出獄人に下付す若し之を浪費するの虞ありと認むるときは其居住地の官署へ之を回送せしむ

工錢の所有殘額は一定せず或種の女囚に在ては皆無と云て可なるも又或種のもは一年二十「フロラン」五

に下付し其餘は監獄署より將來居住すべき市町村の官廳に回付す而して此金員は其到着の際下付するものとす

囚人ノ貯金平均額左の如し

在監一年ノモノ	五「フロラン」凡我八十餘
同 二年ノモノ	十五「フロラン」
同 三年ノモノ	二十七「フロラン」
同 四年ノモノ	三十八「フロラン」
同 五年ノモノ	四十九「フロラン」

● ツン、マリ、マドレーヌ女監

此女監は善恵女婦團體の設立に係るものにして政府の認可及監督の下に於て其國の法律規則に従ひ獄務を管理する一種特別の女監なり故に監獄の事務は總て是等婦女の主管する所なるも政府の代表者として監督官一名ありて萬習の事務を監督せしむ

凡そ在監婦女の工錢は右監督官の下に於て上長婦女一名に於て之が會計を司るなり則ち此兩者は工錢を管理するの機關とす

在監者の工錢の半額は之を費消することを得其費途は左の如し

十佛)に達せるものあり而して其平均額は一年五「フロラン」(十二佛二十山)に當る

● マルブール輕罪^{壯年}囚監獄

工作場の看守は毎囚に付之に附與せる素品下渡の年月日其物品の種類性質及技量并に其繁昌に付同一の事項を記入する作業表を製し毎週之を獄署に出して點檢を受け以て各囚毎月の賞與額を定むるの標準となす

毎月の賞與金は之を各囚の帳簿に記入す
此帳簿は之を二分し一は工錢の収入を記入し一は在監中費消せる金額を記入すべきものとす

在監人の工錢の一日平均額は九「クロユツエル」とす
費消金は其半額を使用することを得

在監中工錢を費消し得べき金額は其帳簿に記入の金額の半を超ゆることを得ず而して其途は書簡の受取及發送の費用家族へ贈物及救助金送付の費用補足食品の購求代等なり

貯蓄金より例外的場合として仕拂ふことを得べき費途あり

出獄の際必要なる衣服并に物品の購求代は義務的に工錢より支辨するを要す又囚人か過失に依り器具又は材

料に損害を與へたるときは之を辨償せざるへからず工錢の殘額は之を出獄者に下渡す然れども其浪費を防ぐ爲め特別の方法を設けあり

四人出獄の際下付せられたる工錢の殘額左の如し

在監一年ノモノ	五「フロラン」
同 二年ノモノ	十二「フロラン」
同 三年ノモノ	十八「フロラン」
同 四年ノモノ	二十五「フロラン」
同 五年ノモノ	三十八「フロラン」

(未完)

各地通信

●宮城縣會員通信

慈惠救濟資金管理方法

第一條 明治三十年一月 大喪に際し下賜せられたる整理公債證書額面七千坪百圓を基本とし慈惠救濟資金を設く

第二條 縣歲出中毎年金五千圓以上を支出し慈惠救濟資金に編入す

きことにあらす然れども出來得へからずと云ふは必竟未だ貯蓄の思念薄弱なるものにして言はし我儘より出てしものなり去れば其我儘を制せずんば到底貯蓄は出來ざるなり殊に薄少の給料を以て一家數口の衣食に供しつゝあるものは一朝不時の出來事に遭遇するときは忽ち困難なる境遇に陥いることあるは世間往々實例あることにして元と是れ豫め變に備ふるの注意なきに基因するものなれば無事息災の日に於て勤儉以て貯蓄をなし不時の用に備へ置かざる可らずとの主旨を以て菅井典獄は部下を獎勵し貯金規約なるものを設けしめ毎月俸の百分の五以上を各自の名義にて逓信省貯金管理所へ預入るゝことゝなしたるは實に明治二十七年五月なりしや其後取扱上の便宜を謀り一昨年十二月各自の名義にて三池貯金銀行へ預け換をなしたるも頭初より既に四星霜此間室も間違を生せず又た緩慢に流れず最も正確に永續し來りしか今日に至りては單に看守の分のみにて現員貳百四十五名に對する預入總金額三千百六拾四圓余の高額となれり尤も轉任解任等の爲め本盤を去るときは其者の預入分は直に其本人に下戻し猶は冠婚葬祭其他實際止むを得ざる入費を要するものあり

第三條 慈惠救濟の資に充る目的を以て金員を寄附せんとする者あるときは縣參事會の議決を経て之を慈惠救濟資金に編入す

第四條 慈惠救濟資金は拾萬圓を目的とし其額に達するまで之を増殖す

第五條 慈惠救濟資金は縣經濟中特別會計として經理す

第六條 慈惠救濟資金より生ずる收入金は縣下の慈惠救濟事業にして其基礎確實なるものに對し相當補給することあるへし

第七條 慈惠救濟資金管理の爲め特に要する費用は慈惠救濟資金より生ずる收入金を以て之を支辨す

第八條 慈惠救濟資金の歲入歲出は毎年度豫算を以て之を定む

●三池集治監會員通信

三池集治監看守の貯金

勤儉貯蓄は不慮の災厄に處する準備にして不慮の災厄は人生間決して免る可らざるものなることを想起するときは其必要なるは無論のことゝ云ふより外なこともさて之れか實行に付ては誠に難事にして容易に出來得へるときは其請求に依り貯金高の幾分を拂戻すことを得る規約なるを以て是等の爲め既に拂戻したる總金高は貳千七拾六圓余あり人を合すれば貯金を初めしより以來本年一月までにて五千貳百四拾圓余の高額に昇れり而して現今貯金高の最も多き者は五拾圓乃至六拾圓余を有せり是れ格言に所謂涓滴遂に大海をなせしものにして勤儉貯蓄の効や實に著しきものと云ふへし嘗て是れのみならず一方に於ては贅出花費自ら顧みざるか如き惡風を矯正し漸次其素行を端正ならしむるに至れり然り而して昨年以來物價の騰貴は非常なるものにて薄少の給料を以て生計を營み居るものは何處も全しく困難を極め居ることなるか當監に於ては曩に俸給例の改正に依り各自多少の増給を得しと平生の貯蓄ありしに依り大に仕合を比較的困難を感ずるもの鮮少なり今日に於ては一同菅井典獄の賜物なりと悦び益々進んで出來得る限りは諸事節約を加へ勤儉貯蓄をなさる可らずと言合へりと實に美風と云ふへし

●神戸會員通信

兼て多聞教會牧師長田時行氏神戸メソヂスト教會佐久間芳造氏等發起せられたる兵庫縣出獄者保護會設立の

趣旨書を得たれば左に掲ぐ

兵庫縣出獄者保護會設立の趣旨

明治維新以來我國の進歩は日進月歩の實勢を以て進み來りたるが故に社會百般の事物は舊態を脱離して新態を裝ふの實あるが爲め若し其れ十年前に瞑目したる者を再び墳墓の裡より呼び起して觀察せしむる時は驚愕一番實に止む能はざるものあるや明なり此進歩此開明詢に喜ぶべき者ありと雖も竊かに退て裡面に鬱屈せる社會の究狀を觀察する時は悲痛大に慟哭すべきものなくんばある可からず抑々悲痛大に慟哭すべき者ありとは何とや犯罪人の多き事はなり英國人は人口一千人に犯罪者一人弱を有し年々移住者の多きが爲に犯罪者の過般は外國人なる米國すらも人口一千人に犯罪者一人強而已然るに我國は人口一千人に犯罪者三人強を有せり假令外形の文明如何に進歩せりと雖犯罪者の多き我日本は決して文明を謳歌するに足らざるなり義は國を高くすれども罪は民を辱しむるとは賢王ソロモンの金言にして能くも我國今日の狀態を警告したる言ならずや

犯罪者の多き原因素より一二にして足らずと雖も其最大

原因の一とも言ふ可きは刑餘依る所なき犯罪者を善導する保護場のなきことはならざる可からず英國は九十の出獄人保護會を有し「スウィツerland」の彈丸黒子の國すらも尙十四の保護場を有するにあらざるや然るに我國に於ける保護事業の振はざる實に驚くべきものありて存す出獄人保護事業の盛なる歐米にありて再犯者の數は頗る僅少なり之に反して我國の如きは出獄人百分比例の七十は再犯以上のものなりとは最近内務省の調査にかゝる警報なり此れ一に有力なる出獄人保護會の設立なきに因らずんばある可からず管に數の上より之を言ふ而已ならず之を政費に見るも年々消費する監獄費四百五十萬圓は海陸軍費教育費に次く所の多額政費なり而して尙犯罪者は年々増加するとせば愛國に責めある吾人は犯罪減少に力を致さずんばある可るざるなり豈管政費の點而已を以て言んや道義の點人情の點より見るも又更に深き關係を有するあるを知る人或は言ん一朝犯罪したる者にして出獄の後道路に彷徨するは自業自得たりと素より原因ありて結果あるの然らしむる所とは言へ人類相愛の情より見るときは實に憐察すべきものありて存せずんばある可らず然り而して之

寄 書

●我國分房制監獄に於ける教誨の方法に

就て聊か所見を述ぶ

笠 原 正 進

監獄教誨の問題は世論囂々として我日本監獄協會雜誌に或は監獄學會雜誌の毎號に登壇せざるなきが如し、然れども其効否の實蹟未だ曾て論証的の記事あるを看ざるも夙に監獄協會は既に「監獄の教誨をして有効ならしむるの方法」と題し懸賞の問題を掲げ其卓然と事集したること百三十有金余其費に登りたるものは余や親愛する文壇の名士江村福澤洋々散士諸君の諸説なり論する處の旨意大体に於て敢て軒輊あるものにあらず其主論の如きも該説愈々出で、益々妙味を顯はし、明確に能く其背景を透視し得たり、

回顧すれば余も久しく諸君と文壇に臂接することのあれば當時聊か所見なきにしもあらずと雖ども身に寸閑なき淺學閑筆能く筆を染めざりしは今更遺憾に堪へざるなり

返説余一日白屋に坐居し前日の疲勞を慰まん一瓢飲其半を過したる頃余が白屋を叩くものあり其の誰れたるを知らざるも余が寓居に來るものは親愛なる獄事家にならざれば將た懸獄の奴隸なり故に余は坐ながら來意を問ひ答ふるに入るべしと命したり來る處の客に果して何人ぞ余と實夜獄事に接する其連無二の教誨師なり喜色恰々として笑を含み余が傍らに坐し私に余に諮問を試みんとするの風姿あり氏元來酒を嗜まず故に執上に散亂ある粗果を集め氏に愛に供し余は猶ほ謝して以て一瓢を

を救ひ之を導くは政府の職責吾人の義務たるを知らば吾人は彼等が愈々罪惡に沈淪するを袖手傍觀するに忍びざるなり素より犯罪は忌むべき者犯罪者は惡むべき者なりと雖一度び之が制裁を受けて處刑されたる以上は彼等が罪を赦して之を善良たる民たらしむるは吾人國民たるもの、頃刻も忘れてはならぬことなり況んや彼等が罪惡を爲すに至りたる原因を討究する時は大に憫諒すべきものありて存するに於てをや於是乎犯罪に關しては社會も一部分其責任を擔はざる可らざるものありとは較近の刑法學者の認語する一理論なりとす我儕微力敢て當らずと雖も茲に出獄人保護會なるものを設立し刑餘依る所なき出獄者を善導救護せんとす仰き希くは慈善の士よ我儕か微衷を憐み應分の助力あらん事を切望して止まざるなり

明治三十一年一月

神戸市荒田町三丁目百八十八番ノ二

兵庫縣出獄者保護會

(會主) 佐久間芳造(主事) 村松淺四郎(監督) 長田時行
(顧問) 留岡幸助、原胤昭、田中助

盡さんとするに兵起ち曰く君に一着を與えん。懷中を探り出したる處のものは、爾看にらすして一の紙片なり記する處のものは曰く（我國分房制監獄に於ける教誨は如何なる方法に據ら其効を奏する乎）とふり余は氏に問て曰く何故に之れをなして余が爾看させし乎。曰く君は我新築工事に就て星月久しく其任に當り能く其の操進を知る余も亦た爾々該處に出て、教誨を試み傍ら分房操進に據て教誨の効否を將來に考へ所論なきにあらず君能く其勢に堪へや。聊か閑散の身なれり聞かぬ故に君が常に懷抱する所論を聞き余は口頭開戦を試みんとして來りたるものなりと余之れを聞き大いに喜び氏に答て曰く余は教誨師にあらずれば教誨の事能く其道を極むる能はず然れども聊か意見なきにあらず諸君一席の開戦こそ余が希望する處なり。庶幾底を探り分房教誨に対する意見の草稿を取り出し氏に示したれば氏も亦た所見の論鋒を向け論議したるも遂に勝敗を決せずして暫く休戦を告げたり其論や今更余が先輩名士の高見に供すれば鶴助陣處の說として軒渠に博するなるべし然れども余は未だ獄事社會に於て分房制監獄に於ける教誨の定論なきは或は余が無二の教誨師其人の好意に出たる一着の趣味なきにあらざると思料するの余り其好嗜なる爾看を空しく一席の獨酌に食し終らん。余が真心に告むる處故に聊か所見を陳べ貴重なる臨上の光彩を汚す。爾云希くは明士天れ之れを諒せよ。

因に記す余が建築に従事したる監獄の建築費并に敷地坪數其他分房數は左に示す處に據る（今道建中）

- 一 建築費金總高拾二萬一千貳百六十六圓貳拾貳圓四厘 敷地坪數六町九反四畝七步地方男監分房數（總て三疊數）二百五拾拾房居房數（總て六疊數）百六十房全女監分房數四十房居房數二十房にして大体

の二派に分れ議論をして一定の煥点に期せしめず然れども余は分房制教誨に就ては左の主義により個人的一定の方針を取るべしと唱道するものなり

- 一 宗教主義
一 道理主義
一 道誨主義

曰く宗教主義は如何なる種類に適用するや。余言ふに丁年以上にして強暴頑硬執拗愚惡の囚徒に對し信實必固因果報の恐るべきを以て感誘爾善の道を講すべきを要す

道理主義は如何なる種類のものに適用するや。余言ふに同しく丁年以上にして曾て宗教に關係なき所謂無宗教なる囚徒の内稍々教育の要素ありて常に是非正邪の理を辨識するものに就て道德的改過遷善の道を講ずるを要す

道誨主義は如何なる種類のものに適用するや。余言ふに丁年未満にして宗教が如何なるもの道理は如何なるものかを理解し能はざる囚徒に就て教誨師は茲に一定の方針を向け個人の思想に宗教によるが將た道理にあるかを考量し而して適宜なる處の道誨的訓誨の教誨を施し道を傳むる彼れをして不知不識感化の道に扶掖して以て改過遷善の道を講すべきを要す

一 分房教誨は教誨師の分担を區別するを要す
教誨は何れの場合を問はず囚徒の性質に適應せざれば其効を欲むるを得ず殊に分房教誨の如きは教誨師の分担を明割に區別せざれば其効を奏すべからず
例今は茲に分房拘禁囚徒を三百名とするときは其教誨師の人員は之れ

の操進は弱面形（協會雜誌百六號に圖面あり）分房監の操進は總て圖面を以て圍ひ外見を防き戸扉は堅く閉鎖し觀察孔あるも常に外部より密閉し光線の透入する處は唯だ天井の格子あるのみにして所謂小洞洋君が分房制要旨に論したる如く囚人其の一人の己れを悔み己れを助くる同類あるを見ず厭惡は高く且つ密に格子を以て望見を防き戸扉は堅く閉鎖して外界を對す（中略）國權法紀の強盛且つ神聖にして到底一個人微力を以て之れを犯し能はざるものなることを銘識せしむべし云々とは則ち之れ等の分房監を以て稱するに足る乎聊か參考の資料に記し以て分房制教誨の主論に入る

主 論

一 分房教誨は教誨師の人物を精撰するを要す

教誨は行刑上須臾も欠くべからざる緊要の機關なり此の緊要なる機關に向ひ選擧宜しきを司ざるものは又た教誨師の任務なる其の効を奏し其實を欲むるも亦た教誨師其人の技能なり故に分房教誨は最も道を講ずるものにして其正鵠を得道を傳むるものをして能く其道に入らしめざるを得ず然らば則ち何を以てする乎曰く教誨師の精撰なり

- 一 學識及才氣あるもの
一 人を涵養するに足るの経験あるもの
一 道を講ずるに熱心なるもの
一 監獄に經驗あるもの
一 容風來自から醜態を存するもの
一 年齡四十以上もの

一 分房教誨の主義は個人的に一定の方針を取ることを要す

教誨の主義は世間噂々一定せず曠は宗教を可きし曠は道理を可とする

を四名とし三名は分房囚を担当せしめ一名は雜居囚を担当せしむ任期は少くとも一ヶ年以上とし差りに之れが交代をなす一名に對する分房囚徒の數は之れを百名と定め道を傳むるもの性質を精査記識せしめ道を講ずるに正鵠を誤らず事に當るに同情を表し其相當する處の囚徒の行爲は勿論至親間の關係に至る迄充分に知悉し機に應ひ變に應じ根本的改耳歸善に誘導するを要す

一 分房教誨は賦身的囚徒に同情を表するを要す

分房教誨をして有効な期せんさらば教誨師は一意専心囚徒の意思に對し同情的至誠の精神より出て親切に訓戒慰諭し彼れが辛酸は教誨師自らの辛酸とし彼れをして以心傳心の裡に所謂教誨師なるものは我等が無二の公友親和の慈母たることを感念せしめ一身は教誨師に據るを以て管理せらるべきことを記識せしめを要す

右の理由あるが故に教誨師は分房教誨に就ては専ら個人の關係を省察し入監出監罰疾病其他親族故舊の來信誠父母の衷達等苟も彼れが身に異動を生ずる后また喜憂を向ふたる時の如きは所謂賦身的彼れに至誠の同情を表し曾て考量觀察しつゝある彼れが行性に據り官はんを欲す處に答へ既に成さんとする行為に向ひ切々改過遷善の道を講ずるならは至極の教誨も亦た容易に實踐を見ることを要す

一 分房教誨は性質上の關係を詳察するを要す

分房教誨に就ては第一彼れが性質の如何を考量し而後彼れをして根本的改過遷善の道に扶掖するの法方を取らざるべからず其性質を知悉せんには千差万別ありと雖も教誨師は先以て彼れに同情を表し初めて監獄に入監するものあれば必ず彼れが身上を尋問すべし答ふる處の影響は自ら彼れが形容に顯はる其形容に依る悲哀痛愛なるべから

此の悲痛を觀察せば教師は必らず之れに憐愛救恤の至誠を添へ徐ろに彼れが往事の素行を詰問すべし如何なる頑硬蠢愚の輩と雖も如何なる強惡粗相のものと雖も教師に對し己れが眞實なる思想を吐かざるものなく己れが將來を依頼せざるもの一人としてあざるなし教師は其手段を以て能く彼れの性質を知悉し得ば時時勉強なく彼れが意向に果して如何なる化途に向いつある乎を追究し而後之れに感化感化善導の道を講ずれば至極の教師も亦た容易なるべし故に教師の任務期限及受持期間の明示は分房教師に必要なりとす

分房教師は犯罪構成の原由を探究するを要す

分房教師は囚人入監の當時彼れが性質を觀察考量したる上に就て得たる處の要素を以て教師は彼れの犯罪は如何なる原由により構成したるものかを探究するの必要を發見せり若し教師が其犯罪の原由を探究し能はざるべし分房教師の目的は所謂井に望んで月を採るの謬りを免われざるなり

凡そ世の犯罪には種類多く物資あり賭博あり放火あり放殺あり謀殺あり或は詐欺あり進んでは國事に關する犯罪もあるなり然るに之れが犯由を窮探せば憐むべき赤貧の極達に通じ幼兒を殺害するあり色慾痴情の爲めに放火せるあり淫々途に迷ひ饑餓の餘り店頭食物を窃取するあり人の物品を掠奪するあり人を欺問して金錢を騙取するものあるなり如斯地因より反射し來る處の彼れが心情は果して如何ぞや宜しく既に教師が入監の當時觀察考量しつあるべし然らば則ち教師其人に於ては彼れに對し充分なる同情諒解の教育を施し親切に改過善導の道を以てせば分房教師の目的を奏するに難事ならんや故に犯罪の原由を探究するも亦た分房教師の要務なり

ることを要す

分房教師は教師の風采を尊び言語抑揚に注意するを要す

分房に拘禁せらるるものは罪年餘犯數により區別せらるるに雖も概して彼等以下等社會の多數を占むることは實驗上多辯を要せず然れども又た中等以上の囚人なしとせず其多數なる囚人の内には相當教育を有する者あるべし或は教育なきものもあるべし其數に至ては眞に目に一丁字なき頑硬蠢愚の輩も多かるべく故に教師が風采は最も之れを尊び外貌より彼等をして威嚴を犯さしめざるに注意し苟も卑俗の風に流れ野卑の發言語次の抑揚に至る迄緩急其宜しきを失せば既に各個囚人の意思を考量しつある自家の心情は毫も其ものに發動せしむるを得ずして反て輕蔑せらるる原因となることあるべし故に分房教師には最も教師の風采を尊び言語抑揚に注意するを要する所以なり

分房教師は獨り教師のみならず司獄官の補助訓戒を要すること要す

分房教師をして有効ならしめんと欲せば當に教師のみに一任すべきものにあらざる教師が至誠の同情を以て各個囚人諸般の關係を詳悉し活眼を以て彼れが心理を看破し彼れの言はんと欲する處將た彼れが答へんと欲するの舉動あること司獄官に於て看破せば宜しく教師と同一の心情を以て淳々感化の道を講ず所謂寸鐵人を殺す的の訓戒を加ふべし其他囚人の作業賃料文書接見等苟も社會的の調査により發見したる處の事柄は細大さなく記てこれを教師に傳ふべく若し又た強惡粗暴の囚人にして教師が至誠の情に反政する乎或は教師に言語動作の不尊なるが如きある場合は司獄官は短刀直入彼れが非行を噴留し嚴重なる取締を加へざる可らず如斯に大に分房教師をして有効ならしむ

分房教師は父母兄弟妻孥の有無に注意するを要す

分房教師の目的を達せんことを欲せば須らく教師は彼れが父母兄弟妻孥の有無に注意し入監の當時に知悉したる個人的教師は其道を脩むるものに就て方法を異にするは最も適當の其事なり斯く其目的の燒点に達したる以上は如何なる強惡粗暴の輩も如何なる頑硬蠢愚の徒も己れが父母兄弟妻孥の身上より其身の既に鐵獄の下に呻吟する非境に墮落したる語次に致らば必らず其感情の發動せざることをなかるべからず其感情の發動する處は彼れが善良なる良心の萌芽する秋なり此時機に乘し教師は宜しく同情至誠の精心を以て驗々改過善導の道に誘接せし分房教師の目的は得て望むべく其眞實も亦た顯然として火を睹るよりも明なり

分房教師は就ては其施行期限并に犯數年令を區別するを要す

分房制は囚人をして獨り寂寥の痛苦に堪へせしむるのみならず罪惡の傳播を防ぎ善導改過の効果ありしむるものなれば之れが施行期限及犯數指令の區別は各個囚人の關係に據つて全然明瞭に分割せざるを得ず然れども今之等をして一々明記する能はず故に左の區別を以てせば所謂分房教師を施行するの一の眞實たるべし

一施行期限は其最長期を三年とし精神上及身体に軟くる處なきものは猶繼續して五年迄延期すべしと雖も之等分房に勾禁する者に就ては個人的心情の關係は慎重に取捨斟酌すること要す

一犯數の如きも初犯にして偶發罪の者得犯以上にして習慣犯罪のものゝ如きは全く之れを嚴罰して論証的分房の効否を試験するは所謂分房教師に對する眞實ならん乎

と所以なり

●警視廳巢鴨監獄署を觀る

在東京 洋々 散士

散士監獄の下に來てより警視廳の三監獄を一覽せんとするや久し矣、而して銀台橋監獄署は昨年九月三日之を一覽したれども、未だ巢鴨及び市ヶ谷の二監獄に及ばず常に以て憾と爲す、偶本年一月二十二日土曜日に關し中日の閑を以て、散士が知人内務屬羽村就久氏及び散士が文壇の友内務屬上田定次郎氏と退隱後巢鴨に向へり、而して此の日や法學士内務屬赤司憲一郎君も同行せんことを約せしに、突然他の用事出來し同行するを得ざりしは最も散士等の遺憾とする處なり、即ち牛込停車場に至り新宿迄汽車に乗じ同所より乗替を爲し目白に向はんことを一時間餘を過ぎざれば發車せず、是に於て斷然徒歩に意を決し、巢鴨監獄の方角を巡査に尋れしに非常の後戻りとなり却て牛込より直路徒歩するの近きことを知り、三人獨々喜多の旅行なるを悟り各苦笑して田舎を通る道路泥濘且つ迂曲難く雖も幸ひ道案内同行者を得漸くして音羽町を達す、彼の有名な音羽諺國寺の門前を経て、遙に練化及び御影石を以て組み立てたる名門樓の雄巖たるを見る、問はすして知る巢鴨監獄署なる事を、既に於て達す即ち到る門衛看守に通じて應接所に至る時將に午後三時に至んぞ散士等の退隱十二時より殆ど三時間を費せり、若し牛込より直路徒歩せば一時間餘にして達せしものならん、之が爲めに幾部典獄を始め諸課長職員皆退隱し宿直員のみ残り、爲めに同典獄諸課長等に面會して親く獄事上の談話を聞く能はざりしは最も散士の遺憾とする處なり、即ち直守守長村井牛之助君の嚮導にて監房及び工場を一覽せり監房の構造は雜居制にして一房十三名を入る可く、而して其の建物に

なり然らば我民事訴訟法に明に本人制度を採用し第二段に代人制度を採用したるものなり、久我氏一考せよ代人たる辯護人に依頼するに相當の辯護料を出さざるを得ざるを以て之を雇ひ入るゝ事困難なり殊に身は鐵窓の下に呻吟し居るを以て自由なる能はざればなり、今假りに久我氏の説に従ひ代人に依頼するときは一分たりと刑の執行を免れざるや否や、散士は以て爲らく代人に依頼するも尙作業を中止し刑の執行を免るゝが如き有様なる、何となれば先づ委任状を認め代人に交付し且つ又代人に面會して事實を談話せざる可らず是して之を許せば本人が民事裁判所に至て答辯して事實を争ふと如何なる軒輊ありや、刑の執行とは自由刑を執行せらるゝの意味にして作業を中止し裁判所に出現するを以て刑の免除と解するは誤解の甚きものなり、尙久我氏は護送看守の旅費の支出に苦むが如しと雖ども監獄署所在地の裁判所に出頭する看守に旅費を支給するの必要なき何人と雖ども之を知るならん、民事裁判所は被告人の所在地に裁判官轄なればなり、故に典獄たるもの四人が民事の被告人として呼出を受けたるさき本人の意思に依て出廷せしむ可し、出廷の權利を擁護する否と否と、本人の隨意なり、本人の出廷を願ふに拘はらず、典獄が之を許可せば如き事あらば典獄は其の責を免る可らず、何となれば在監人に對する送達監獄の首長たる典獄に爲すものなればなり、然れども爰に注意す可きは即ち四人が重罪なるさきは刑法第三十五條に示す如く其の主刑の終る迄は自ら財産を治むことを禁じたるを以て從て訴訟能力を有せざるもの、故に裁判所が誤て呼出狀の送達ありたる時は此の旨を典獄より裁判所に通知し、然る後尙呼出狀の取消書來らざるさきは此の旨を本人に示し而して出廷せしむる事を可とす世の當局者たるもの久我氏の議論に惑ふことあらんこと

を恐るゝに之を反駁す久我氏以て如何と爲す
附り重罪囚人を民事の被告人として訴ふるさき財産管理人なるものを設けしめ、然る後に之を訴ふものなる事は別に同指令あり、而して不動産上の裁判所に原告が訴を提起し監獄署所在地の裁判所に非ずして遠距離の裁判所なるさきは旅費規則に依て護送看守に旅費寄料を官より支給す可きは固より當然なり

●未來の獄事

在秋田 高橋 圓藏

抑も監獄は刑罰を執行する場所なりと又一説に監獄は不眞人民を拘禁せしむる所なりと二説何れも理ある一國の治安を保つべく爲め設置したる懲戒場なるが故に不眞人民をして改悔の情著しく願はれ再び刑を犯せざるに於て始めて治獄の精神を貫徹したるものと謂ざるを得ず一國の秩序を保護せん欲ざれば獄舎の構造完全完備ならざるべからず隨て其局に當る者至重至難なる事業にして學識と經驗なくんば其の効を奏する能はずと雖ども第一構造不完全なれば罪惡増々繁殖し不眞人民は飽まて不眞に感化ならしむるに至らん其弊害として罪惡の原因方法手段一層巧みに妙を得増々犯罪者夥しく發生し經費爲めに年々増加を見るに至る可し豈に社會の貴重且大ならずや

今や我國の文明海外に告白し社會の發達と共に刑罰上昔日の面目を改め著々改眞進行し明後年内地雜居の約あり其機に達し外人を如何なる政策を以て所遇拘禁する哉此の點に就き余輩は我國の狀況を觀察し前述の狀態を豫想すれば此の兩情に過費したるに非ざるを知る何んとなれば我國一二の監獄を除き全國舉げて其構内監房工場其他刑の執行上完全無缺一として外人の比擬を免れ當局者の遺憾なき建築構造あるや余輩は豫想的完備なる構造の獄舎ありと斷言するに躊躇せざるを得ず

就中本縣監獄の如き元來十年以上の星霜を経過したる建築構造にして最も其増築を加へ修繕の箇所多し爲めに初犯再犯丁年未丁年者懲治人及び留置人其他刑名罪囚に依り各々嚴重に監房の區別ありと雖ども同房者の多數と工場雜居に就て世人の批難を免ず昨年當局者大に犯憂する處あり新築の計劃を企て數年經驗苦心の余り改眞と詳密なる構造の模倣圖面を造り本縣議會に提出し新築に關する諸般の報告をなし最急の急務なる主意を説明したるも遂に其結果目的を達する能はず實に遺憾の極と謂ふ可し若し此の構造にして長く從前の儘に放任し置きたらんには意外の弊害を醸し不眞人民をして感化還善の正道に誘導し惡觀念を離れへさん欲す至難の業なり蓋くは多量なる本年を期し地方監を以て市中と隔離なる地位を詮定し新築若しくは改築其他増築の事に今日の最急最急の急務ならずや然れども經費の強制する處となり緩漫空しく日を費やすの計むを得ざる地遇にあり

他日内地雜居の期目前に迫り來て萬國開放したらんには米人來り英人來り獨人來り魯人來る可し而して人事慈愛の上より推測すれば外人の最も目を注ぐもの我日本刑罰執行なる可し刑罰執行如何により其國の未開なるや否文明の實を確知しむるに足る嗚呼現況の有様を自目撃し如何の觀念を生ずるや須らく當局者豫め將來の覺悟なくして可ん哉制服改正の實行目前にあり日に月に從て改眞發達を示し後來の龜鑑なり然れども制服而已美観なると雖ども構造不完全なれば當局者の熱誠懇篤空しく水の泡の如く消えんさ此時に當り明後年の内地雜居の機に達し金匱に覆すべきの憂念賀すべき迎意更に當局者に猛省を促さざるを得ず例今英佛人我監獄の參觀獨人の觀察何國人と雖も自己愛嬌人にして若し法を犯したる以上は我國監獄の制裁を受けざるべからずせば隨て刑

の執行如何を配慮せざるべからず内地獄にして不完不備制服美観なれば就て發達改眞を示す龜鑑なりと明言するを得んや

其玉も至難を加へれば光輝を放たずと誠に然りと雖ども司獄の事これに反し制服花美にして人物才能あり至重至難の局に該り善く一舉手一投足皆世人の賞賛を得而して在監囚に對し熱心に感化上の教誨を施す善真に化せしむるに構造不完全と同房者の多數に依り感化誨諭の精神滅する傾きありて前非を顧みざる念湧し嗚呼人間は感情に變じ易き動物にあらずや國を治めん欲するもの先づ家を齊ふにありと誠に明言ならずや終りに臨んで前途多望なる今日獄事を以て一層効果あらしめん事を切望不

●洋々散士君の記事に就て

望月龍南

抑も本邦に於ける拾數年前百般の事業に就て最も功難なる監獄事業が今や一新面目を改め彼れは他事業と併行を見るに至りたるは斯道の爲め大に賀すべき事なり然り而して此の賀すべきの境遇に進行しつゝ有るは果して何人の力なるやと云ふに第一當治者間の熱心盡瘁するに依る第二は嘗て斯道のため風俗を正す機を以て各熱心家は是の紙上に僞り名義事業を續進し交は雜誌の機關あるを以て各熱心家は是の紙上に僞り名義事業を續進し交は雜誌の交換をなすを以て一層之速達を見る此れなり故を以て甲監獄に於て施行しつゝ有るの事項にして功難なりとせば之れを忠告して改めしむるの勞を惜むべからず忠告せられたるもの又望むるに憚る可からず然り而して忠告の二字は斷分立派なる文字なるを以て此れを適度使用する又至難なりと愚考す蓋く之れを讀せんが儲るなくんば其の用をなさず兵兵急に之れに接せん一步を誤らば忠告變じて中傷となるに至らん豈

に至るの文字にあらずや。蓋し洋々散士君が我が埼玉監獄を見るに、
しほ々數千言の萬事を網羅し又餘す所なし君の文意の巧妙なる常に
不肖の敬服する所なりと雖も夫れ或は少し急に過ぐるの憾じなき不
能元より不肖は君の忠告を服膺し忘れたるものにして決して君の高説を
反駁するものに非らず勿論君の赤心より出たる忠告たる事は信じて疑
はずと雖も忠告的事をなすの君にして親切的に出でざるは是れ最も不肖の
解する不能所なりとす不肖は随分誤運にして所々を流涕し三三監獄に
足を容れつゝあるも大抵無聊を以て職を辭し今や埼玉監獄の厄介さ
なり足を留むる既に半端餘常に神代典獄の方針に注目しつゝ有るが氏の
方針に至りては一点の非難する所なきが如し氏は尤も監獄衛生に重きを
置くが如く最も彼れ等の健康を保全するの道を講ずるものゝ如し然り而
して氏の處に青銅橋監獄に典獄たりし時の如きも随分乱雜なる跡を引き受け
着々改良に従事し内に有りては會計の紊亂を矯正し外は遊歌の聲頗々
して俄説隨聞の政變極程に立ち能く其の監獄の聲價を挽回し恩威並び行
はれさすの無類漢も感泣し又一度出獄するに於ては再び獄内に於て
戀愛なる典獄に見ゆるを得ずと云はしめたり云々當時の青森新聞に於て
見聞せり故を以て當署にあるも單に衛生に意を注ぎつゝ有りと雖も君の
比較したる銀治橋監獄に其れ一步を譲る所有るべし如何せん銀治橋監獄
は多く被告人のみを拘禁する監獄にして而かも經費の充分なるに於て
や監獄の光澤又全所に比し是れ又一步を譲るべしと云へども是れ少し無理
に失するの言と云はざるを得ず當署も果して構造を同一にし以て譲るあ
れば是れ當局者の責なりと雖も其の構造何んぞ銀治橋監獄と日をも同ふし
て論ずるを得ん據中に木葉の散亂するあるは是れ前日風雨なりしは君の
親く認むる所なり且又何れの監獄と雖も斯かる場合に於て木葉の散亂す

又依むに足らず監房に一種云ふべからざるの臭氣あり糞桶たるの至に
有れば其の香ひに慣れ感ぜずとあるは典獄員に此れ等に注意し布團の如
きは頃日と雖も之れを日光に晒らし又一週毎に熱氣消毒を施すを以て君
の云ふ如き事有るの理なきが如し是必ず君が通行の際生情掃除が便器
を監房より取出すの時に非ざるや泥土にして工場より工場に至るの間
板を敷き以て通行す是れ姑息の策なりと此れに砂塵を敷くを得ば大に好
からん此れ君の言の如く尤も然りとす然れども之れを敷くに當りては
其費用を要するを如何せん少許の費用を以て能く之れが功を奏するを得
ん故を以て一涯に姑息の策なりと言ふは是れ或は無理ならん關八州の地
たるや土地砂塵なく何れに至るも雨後泥土ならざる所なし豈に獨埼玉監
獄のみならんや見よ登殿の下帝國第一の都會たる東京市中の如き一朝降
雨あらんや恰も泥の中を歩するに異ならず此れを以て西洋の如く於て
疊み煉瓦を以て之れに敷くべきは可なれども帝國第一の都會に於ける東
京市街の道路に於て尙ほ然り況んや埼玉監獄や土地の宜るしから
ざる費用の許ざる所典獄たりと雖も又如何んともする事を得ず周圍の板
壁をして煉瓦たらしめたるは之れ又君の言最も然り然れども今假
りに高さ一丈八尺と見れば少くとも四五拾万圓の費用を要すべし埼玉
の地たるや毎年水害多くして土木費に苦められ又監獄費の如きに至りて
は縣下の議員餘り重きを置かざるものゝ如し否重きを置かざるに非らず
と雖も一日も忽路に附すべからざるの土木費を置き四五拾万圓の監獄費
を負担するが如きは之れ云ふべく望むべくして行ふ不能説なり炊事に至
れば湯水の停滯の爲め非常の臭氣ありとあるは炊所の貯水は毎日掃夫を
して之れを汲み取らしめ決して停滯せざるが如し又殘飯に至りては毎日
之れを拂下げ餘す所なし工場に於て人員を報する有りせざるありとある

は一回報告したる工場に於ては異狀なき限りは二度報告をなさず散士君
は末段に於て看守の任免頻繁なれば其の統御宜ろしきを得ずとあるも
頃日當署百二十余人の看守にして一日平均一人を越へざるを見れば又如
何に典獄が統御の宜ろしきを得つゝ有るやを判別するを得ん散士君不肖
は決して君の忠告を無にするものに非らず然れども折角の御明説にして
急激に過ぎ其の効澤をらしめざるを希望するものなり只不肖の憂ふ
所は決して直接接談に記載するを望しと云ふに非らず然れども協會雜誌
たるや必ず海外に出て外國當局者の見識する所ならん彼れ等が常に對
等條約に云々するも監獄の未だ野蠻なりと云ふ是の一に居らん左すれば
埼玉監獄の記事も以て遂に全國幾多の善良なる監獄が同一視せらる
ゝを恐るのみ以上述べたるは或は過激に失し君の御意を損する所あらん
之れ不肖の文才の足ざる所に出つて下乞ふ是れを諒せよ

●一年未滿の行狀勸査に就き各監獄實際の取扱振を問ふ

望月龍南

明治廿二年二月拾七日内務省訓令第五號に依るときは同令第五條に於て刑
期一年未滿の囚人刑事被告人監治人及別居留置人の行狀は勸査期を分た
す適宜の方法を設けて勸査すべしと有り此に依つて見るべきは別に勸査
期を分たざるも可なるは論を俟たずと雖も適宜の方法と云ふに至りては
各其趣きを異にするならんと思ふ或監獄の取扱なりと云ふを聞くに
一年未滿の者に對しては例令拾五日乃至拾日位の短期囚と雖も第一期
二期に區分し刑期の中を以て勸査期となし勸査會に付するの慣例なるや
に聞知せり此れ實に繁雜にして其の手續を要する事非常なりとす而して
予の思ふには同より此の訓令の趣意たるや一年未滿のものに對しては頗
る簡易的に出でたるは第五條の明文に照らして明なりと雖も前述した

る勸査の如きは其の繁雜なる到底改正前令と日をも同ふして論ずるを得ず
前令に依れば三ヶ月以下は省略す云々と有りしも本令に其の規定なき故
に多分廿日位の短期囚と雖も勸査をなすつゝあるならんと思ふ是れ實に
繁雜なるのみならず其の實際に於て行狀を觀察する難し否行狀を勸査す
るの餘日なきを如何せん然れどものみならず長期囚のものに雖も隨分其の視
察を誤り外面の從順に迷ふが實を授與したるものなれば其の誤
犯し入監するもの往々有り此れ所謂人々を觀察するものなれば其の誤
犯ある固より咎むるに足らずと雖も右の事實に照らすも何んぞ廿日乃至
拾日位の短期囚にして完全なる觀察を遂ぐるとを得ん果して然りせば
是れ徒に無用の手續を煩はすに過ぎずして其効なきものとす而して訓令
第五條の趣意に依るも年以下のものに對しては刑事被告人等と行狀觀察
の同一なるに於ては其の重きを置かざるの証跡なりとす以上の如くなれ
ば年以下のものに於ては各受持看守長に於て只其行狀のみを記入し看守
長に於て實するに足るべきものと愚料し又は不真なるものと愚料したる
もののみ限り刑期の中に進したる時期に於て勸査に付する事とすれば
聊か法律に抵觸する事なく又一方に於ては無用の手續を省するを得ん
大力の諸氏各其の實際の振合を舉げ御明教を賜はらん事を切に祈ふ所な
り

●俸給令改正に就て

在埼玉 望月龍南

大政維新以前は舊曆き晩拾五六年前に在りては世人監獄の何に物たる
を知らずして百般の事變に就き尤も關點の然れども世人の注意を惹く事最
も夥なきは吾人の唾を要せずして監獄事變たりしは明なりとす然れ
ども今や一新面目を改め歐西文明之組織に倣ひ日に月に隆盛に極き昔時

と相比較せば天地皆爾も言ならざるの觀を呈するに至りたるは是れ畢竟
人智の發達に伴ひ自然の趨勢なりとするも又當局者の熱心新道に嚮拜
したるの結果に外ならず今近く之を例せば最近小川岳洋先生之萬國監
獄實地視察に於けるが如く又内務に監獄局の督勵改良謀を設置するに
於けるが如く彼れは社會の趨勢及當局者の新道の改良進步を促進する
の機會に達したる先候なるは明なりとす然るのみならず本年敕令第百
四拾九號看守俸給令改正に於けるが如く是れ又監獄改良に伴ひ人才登
用の趣旨に出てたるは疑を容れざる所なりとす以上の如く説き來り論し
終らば或一方に於ては獨立監獄局を設け又或る一方に於ては俸給令改正
をなし且つとして新道の改良に余念なきもの如し斯くの如く當局者の
眼光社會之趨勢が改良進步に傾向しつゝ有る實に吾人の一層奮發すべき
の秋なりと思ふ此處に於て予は聊か不遜の筆を弄し一言以て當局
者の一考を乞はんと欲する事あり何んぞとせば獨立監獄局は改良進步之
總旨に出て俸給令改正は人才登用の趣旨に出てたるものなればなり勿論
萬般の事業に就き其の改良進步を企圖するに當りては其の基礎を固めつ
んば有る可からず基礎とは何んぞ曰く第一獨立督勵局を置く一なり曰く
人才登用の道を開く二なり當局者茲に見る所有り今や二者共に之れを具
備したり然れば此の兩者の趣旨に従ひ専心以て其の實を舉げざる可から
ず況んや條約改正實施も既に目前に迫り外國人をして我法權の下に服従
せしむべきの今日なるに於てや故に昔一年四月俸給令改正實施の際に
於ては典獄諸氏たるもの一大英斷を以て一大刷新的改革をなし人才登用
の實を擧げざるを得ず若し苟も因循姑息消極的に偏し刷新を行ふ能はざ
れば如何に獨立監獄局を設け如何に俸給令改正をなすぞ雖も何んぞ改良
進步を企圖するを得ん當に改良進步を企圖するを得ざるのみならず國務

たるの休面を汚損する等の事なきを要す然るに看守の俸給は改正以來九
圖以上拾五圖以下の薄給にて特に近頃諸物價非常に騰貴し現今の處にて
は半年に比して凡そ十倍も高直となりたれば九圖拾圓の俸給は其實殆ど
五六圖に減せられたるもの如しされば獨り横濱神戸等に於けるのみな
らず其他の府縣に於ても皆生計上非常の困難を來し盡たしに至ては所
謂九尺二間の家に鳩居し下等人民に等しき生活を爲すもの之なしとせ
ず并ば強ち本人の責にあらず其受くる處の俸給全く妻子の口を糊するに足
らざればなり

現今各地方の状況其れ此如くは此の際當局者に於て其休面を全ふせ
しむるの途を講ずるは目下の急務なりとす或は看守の俸給を改正して月
俸を増給せられたるに余は敢て反對を唱ふるにあらず俸給を改正し増額
せし雖も實際今日に於ける各府縣看守の俸給は八圖八拾錢の平均を以
て支給するもの如しされば規則の範圍内に増給するの途なきにあらず
故に順序より申すも下給は則ち拾圓に昇せ尙ほ九年若しくは十二年
以上の勤続者には特別俸を給するの方法の途を立つることあらば之を實
行することを得へし勿論該令に土地の状況に依り云々の明文あるを以て例
令は横濱神戸等別段物價高直の處にあつて一ヶ月三圖其他の府縣に在て
は夫々土地の状況を斟酌し一圖若しくは二圖と等級を付けて宿料を給する
に於ては毫も該令の趣旨に背くことなく又換束上より論するも看守
は監獄に接近して住居せしむるを命するにあつては其義務を負はしむる
以上居舍に貸與するにあらずされば相當の宿料を給せらるを得之れ余は諸
物價騰貴の際に際して勿ち當局者に訴ふるものなり

●卑見

大阪 一 艶 女 史

官吏たるべき器備を有せざるもの有りませば外國人の嗤笑を招くに至ら
ん當局者下るもの大に熟考すべきの秋なり愚見を以て忌憚なく之れを言
はしめば四月俸給令改正の際に當りては一般看守の學力を試験し其の優
劣を審査し階段を附すること人才登用の實を擧げたるものと云ふべし然
り而して改正俸給令に依れば在職一年以上に非ざれば五級俸以上即ち
拾壹圓以上に昇級せしむるを得ずとあるも内務省の通牒を以て改正俸
給令實施の際に限り同令第三條在職一年以上の制限に依らざるを得云々
とあり左すれば假令今日八圖俸の最新拜命者ぞ雖も學術的試験に於て
同職官更たるべき充分の技術を有するに於ては一躍突飛して拾五圓とな
す又何んぞ慊むに足らざるは眞に人才登用の實を擧げたるものと云は
ざるを得ず典獄諸氏並番一番積極的進取の方針を取り敏達捷速の士
なして手に睡ばして立たしめよ故て卑見を述べて典獄諸氏の一覽を乞ふ

●何故に看守に宿料を給せざる乎

東海 丘 涯 生

明治二十八年十一月勅令第百五十九號を以て巡查看守には土地の状況に
より一ヶ月壹圓以上三圓以下の宿料を給することを得定められたり然
るに二三府縣を除くの外は何故にや巡查看守に對し未だ宿料を給せずや
或は曰く該宿料は横濱神戸市等の如き物價高直なる地方及び之と同一
の状況を有する土地に在動する巡查看守にして生計上非常の困難を感ず
爲に警察官又は司獄官たるの休面を全くすること能はざる實に困難の事
情あるものに限り之を給せたる趣意なれば蓋より一般に宿料を給せざる
害なしと其れ然り豈然らん哉

抑も看守の勤務は他に比類なき劇務にして而も紀律嚴正且忠實に職を執
行す自身は勿論其家族に於けるも品行方正に相保つ監獄官たり又其家族
事物の改良は自然の原則を根據とせされは其功を奏するも難かるべし熱
々宇宙の組織を考ふれば眞に此世は勢力の世の中なり勢力なるもの必ず
萬有を服従せしむ然して萬有は又必ず勢力の下に心服す然り而して服
せしむるに當りては極端なる所過即ち殘虐の以て永治するものに非ず宜
しと博愛以てせざる可からざることは歴史の示して明なり然れば社會組織
上に於て必須欲く可からざる行刺の如きは是れを執行する場所を指して獄
の如き極端なる名稱を付し之に相當する所過を爲すは不可なるべし凡て
此世の有様は動物植物の別なく完全なるものあり不完全なるものありて
用を爲すあり爲さざるありて用なきものは之れを捨つるは數の免れざる
所なり之れ自然の條理なり然れども特り人類に一種の靈性ありて時事
に感して其心を喚發するもとり是れ人智の進步と共に監獄改良の聲の高
まる原因なりさて以上陳する所に大過なからしめは罪人なる不完全者を
して感化歸善せしめんとすれば之れに適當する名稱を付し世人をして之れ
感化の場所なり歸善の院なりとの觀念を抱かしめ世人は改良經費を出
すにも吝かからざるべし然り經費足れば感化の實を擧ぐるにも稍難から
ざるべし且東洋日本國には博愛以て文明の花爛漫たる全世界に示し曾て
見ざるの美國を發表するを得へん乎

彙 報

○臺人の仁心 一米人あり中央亞細亞に旅行して其見聞を公にす臺人の
仁道なるを稱するものあり左に開陳するに則ち是なり
一國の邊境は其國人民の特質を知るに頗強の處なり大凡邊境の民は社會

岳洋小河滋次郎先生序
英國多羅句先生著
霽月松尾音次郎先生譯

洋裝製本八拾錢
郵税金十二錢
假綴金七拾三錢
郵税金十錢

刑罰及犯罪豫防論

全一冊

附出獄人保護論

社會問題ハ今ヤ世人ノ最注目トナレリ就中刑罰及犯罪豫防問題ハ最緊急ノ要物トナレリ大赦減刑令執行ノ結果トシテ層一層世人ノ注目スル處トナリ出獄人保護事業ハ各地志士ノ設計企畫アルニ至リ此種事業ノ參考書ヲ要スル極テ急ナリ時ニ本書ハ英國斯道ノ學者トシテ又斯道ノ改良論者トシテ英名萬國ニ雄飛スル多羅句氏ノ近著ニシテ實ニ志士ノ要求ヲ満足セシムル參考益書タリ然レモ本書頗ル鴻卷ナルヲ以テ適々抄録摘譯シタルモノヲ見ルノ外ナク予輩大ニ憾ミトシ請フテ全篇ヲ精譯シ出版ノ事ヲ爲セリ惜ムラクハ斯道ノ考究家未ダ多カラサルヲ以テ僅々需用ノ員數ニ當テ、五百部ヲ限リ印刷ニ附シ若干冊ヲ以テ諸君ノ清需ニ應セント欲ス乞フ至急ニ御申込アラントヲ

天福堂主人編

立志美談

定價 金三十錢
郵税 金四錢

四人看讀用書に嗜好の者なきは當路者諸君の常に憂とせらるゝ處予輩亦夙に之を憾とし曩に在北海の教誨師澁川水崎君等、霽月松尾君、長陽阿部君、曉堂大塚君、其美談を編纂し以て本書を刊行せり、文、平かなを用ひ且つ多くの細書を挿めり、四人看讀用に適せりと信ず、素より四人の爲にのみ筆を取りたるに非されば或は家庭に或は職工場に備へ自助立志の獎勵となして可なり、又各府縣監獄署既に圖書に備られたる向多し、又予輩先きに月刊せし
◎教誨叢書は目下休刊せり、該書愛讀を申込るゝ諸君には代るに立志美談を以てせられなば或は御需用に應ずるとあらん、

大賣捌

東京市神田區
南神保町八番地
出版元 原胤昭
京橋區出雲町 警醒社書店
神田區一ツ橋通 有斐閣書房